

2002年度

講義計画

桃山学院大学

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
民法概論		春学期集中	4 単位	佐 藤 啓 子
[講義概要・学習目標] 事例を中心に、民法の基本知識と原理を学ぶ。 基礎的な知識を中心とするので、単語にはなる かもしれないが、民法全般を知ることで、他所で も「使える」体系が頭の中に出るレベルを目標とする。	[講義計画] 教科書に沿って進める予定である、			
[成績評価の方法] 出席態度とテスト(変更の可能性あり)	[参考文献] 必ず六法と持参してほしい。			
[教科書] 『現代民法入門』(田沼ほか著 一橋出版)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
商法概論		春学期集中	4 単位	吉 見 研 次
[講義概要・学習目標] この講義では、商法全般の基礎的な知識を講述する。商法の分野ごとの詳細な内容につ いては別に「商法Ⅰ」「商法Ⅱ」が開講されているので、本講義では商法全体の基本的な しくみを解説する。ただ、時間の制約上、商法のうち主に株式会社法と手形・小切手法を 取り上げることとなる。商法は法律学のなかでも特に技術的な要素が大きいため、受講 者には商法学を学ぼうとする強い意欲が要求される。 なお毎授業時『六法』必携。教科書、参考文献の使用法については1回目の授業の際に 言及するので、購入はその話を聞いてからにすること。私語も遅刻も厳禁。その他受講時 の留意事項につき、最初の授業の際に言及する。	[講義計画] Ⅰ 商法の概観 Ⅱ 会社法 (1)会社の性質・種類 (2)株式会社 ①設立 ②法人成り ③株主 ④株式の 譲渡 ⑤株主総会 ⑥総会決議 ⑦取締役 ⑧取締役の責任 ⑨監査役 ⑩新株発行 と社債 ⑪計算 ⑫基礎的変更 Ⅲ 手形法・小切手法 (1)約束手形 ①振出 ②振出時のトラブル ③裏書 ④善意者保 護 ⑤支払不渡等 (2)為替手形 (3)小切手 ①振出等 ②線引小切手 Ⅳ 商法総則・商行為法 ①総則 ②商行為法			
[成績評価の方法] 正誤文選択等の短答式の学期末テストを予定している。	[参考文献] 平井宜雄他編『ポケット六法 平成14年版』(有斐閣) 田村諒之輔他編『目で見える商法教材 第3版』(有斐閣)			
[教科書] 岩崎稜他『セミナー商法』(日本評論社)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学入門 (編入生用)		通 期	4 単位	落 谷 硯 児
【講義概要・学習目標】 戦後日本の景気循環と高度成長の諸様相とその要因を学習する。ついで1980年代のバブルの展開とその後の平成長期不況の分析を行なう。 それらの学習を通じて日本経済が内包する内題実の解明と経済再生の方策を探ることを学習目標とする。	【講義計画】 (前期) テキストの順序に従い、マクロ経済の基礎概念、経済成長と景気循環、1980年の日本のバブル経済化とその後の平成不況について学習する。 (後期) 日本経済の財政・金融の面を構造的に、日本の国際収支・貸借構造と為替レート、日本の経営とグローバルイノベーション、IT革命、日本経済再生の途について学習を進める。			
【成績評価の方法】 出席状況、提出レポートの内容、期末筆記試験の成績等を総合的に評価して判定する。	【参考文献】 その都度指示する。			
【教科書】 内田茂男著 『これで納得! 日本経済のしくみ』 日経ビジネス人文庫 ¥600+税				

経
済
~01

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
地方財政論		秋学期集中	4 単位	藤 田 香
【講義概要・学習目標】 国と地方の財政は相互に密接な関係をもち、今日ますます複雑化している。地方財政とは3300にも及ぶ都道府県と市町村の財政を合わせたものの総称であり、「国家財政」と合わせて政府の財政活動となる。また、経済社会がそうであるように、財政制度や財政政策も、国際化あるいはグローバル化との対応の中で位置付ける必要がある。 本講義では、地方財政の仕組みや実態について、図表や統計を交えながら検討し、地方財政が持つ現代的な問題も含めて包括的に取り上げる。 本講義の目標は、毎日の暮らしに関係の深い市町村や都道府県等の地方公共団体で行われている公の仕事について、そのサービスを提供するために、どのように収入を上げているのか、住民が負担する租税とは、どのような仕組みであるのか等、について理解を深め、その問題について正しく理解し、探るべき方策を考えることです。	【講義計画】 <講義予定> 1 現代社会と地方財政 2 世界に見る地方自治と地方財政 3 日本の地方自治と地方財政 4 地方自治体と予算制度 5 地方税と課税自主権 6 国・地方間の財政関係 (1) 7 国・地方間の財政関係 (2) 8 中間試験 9 地方公共サービスと公私混同経営体 10 地方類型と地方財政 11 地方財政と公共事業改革論 12 環境政策と地方財政 13 高齢化社会と地方財政 14 「日本型」地方分権と今後の課題			
【成績評価の方法】 成績評価は、概ね、定期試験(40%)、中間試験(30%)、レポート(20%)、出席(10%)の評価点から総合的に行う。 なお、講義の3分の2以上の出席、レポートの提出、中間試験の受験を行った受講生のみ定期試験の受験資格を与える。	【参考文献】 講義中、適宜紹介する。			
【教科書】 宮本憲一・小林昭・遠藤宏一(編) 『セミナー現代地方財政—「地域共同社会」再生の政治経済学』 (勁草書房、2000年、3000円)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済開発論		秋学期集中	4 単位	望 月 和 彦
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>テーマ：通念への挑戦</p> <p>アフガニスタンの現状を見れば、貧困がテロの温床となっていることが分かる。テロを撲滅するためには、貧困の解消、即ち経済発展を促進しなければならないのであり、その意味で開発途上国の経済発展問題は、すでに高い生活水準を達成した先進諸国にとっても他人事ではない。また私たちは、経済発展の結果生じた、または生じると考えられている色々な問題にも直面している。本講は経済発展に関する諸問題を取りあげて論じるものである。</p> <p>私たちを取り巻く色々な言説の中には、明白な事実として受け入れられているように見えて実はその根拠があやふやなものがたくさんある。例えば、「資源は有限で使えば使うほどなくなるのでいずれ資源は枯渇し経済成長はできなくなってしまう」と多くの人たちが信じている。ところが、資源の希少性を示す「価格」は下落し続けているのである。もし資源が少なくなれば価格は上がるはずだが現実にはそれと逆のことが生じている。つまり私たちが「常識」と思っていることが常識でも何でもなく、単にそう思われているだけであることがある。それをここでは「通念」と呼ぶ。本講は、経済発展に関する色々なトピック、経済発展の要因、人口問題、環境問題、社会秩序の形成にまつわる通念を取りあげ、これらの問題について経済学だけではなく、社会学、政治学、哲学など多面的なアプローチを通してより適切な考え方を提示する。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>第一部 経済発展の歴史的意義</p> <p>第1章 成長と停滞 どちらが当たり前？</p> <p>第2章 進歩思想vs終末思想</p> <p>第3章 産業革命の意義</p> <p>第4章 第一次世界大戦</p> <p>第5章 大量生産方式の成立</p> <p>第二部 環境問題と成長の限界</p> <p>第1章 現代の終末思想としての環境問題</p> <p>第2章 今日の環境問題とその批判</p> <p>第3章 成長の限界</p> <p>第4章 doomsdayers vs cornucopian 成長の限界に対する批判</p> <p>第三部 人口と経済発展</p> <p>第1章 人口の歴史的動態</p> <p>第2章 今日の人口問題</p> <p>第3章 人口成長と経済発展</p> <p>第4章 人口爆発をめぐる議論</p> <p>第四部 経済発展の要因</p> <p>第1章 経済発展の要因についてのこれまでの議論</p> <p>第2章 経済発展の要因としての秩序</p> <p>第3章 秩序の源泉</p> <p>第4章 まとめ</p>			
<p>[成績評価の方法] 期末試験の成績のみによって評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>最初の講義の際に配布する受講生用シラバス（講義計画）で指示する。</p>			
<p>[教科書] 望月和彦 『論考経済開発論』</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
公共経済論		秋学期集中	4 単位	竹 歳 一 紀
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>公共経済学の基礎について講義する。公共経済学の扱う範囲は広いが、一口で言えば、市場経済において公共部門の介入が必要となる諸問題を経済理論により分析することである。すなわち、公共部門（政府）の介入が必要となるのはどのような問題に対してであるか、また、適切な介入（政策）とはどういったものか、といったことについて示すことが重要な課題となる。</p> <p>この講義では、①公共財と公共投資、②外部性と環境問題、③所得分配と社会保障、といったテーマを取りあげる予定である。</p> <p>公共経済学を理解するためには、主としてミクロ経済学の知識が必要となる。講義でも適宜説明を加えるが、経済原論 I A-1 を履修済みか、同時に履修していることが望ましい。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 公共経済学の対象 2. 厚生経済学の基礎 3. 公共財と公共投資 4. 外部性と環境問題 5. 所得分配と社会保障 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>中間試験および学期末試験の成績による。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>講義中に指示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>特に指定しない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
環境経済論		通 期	4 単位	浦 出 俊 和
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>地球環境問題は、1)オゾン層の破壊、2)地球の温暖化、3)酸性雨、4)熱帯雨林の減少、5)砂漠化、6)開発途上国の公害問題、7)野生生物種の減少、8)海洋汚染、9)有害廃棄物の越境移動、の9つに分類可能であり、これらの環境問題は、人間の経済活動の結果生じたものである。しかし、環境財は、従来の市場メカニズムになじまない、あるいはボーダーレスであるという特質ゆえに、環境問題の解決は困難であるとされてきている。</p> <p>そこで、本講義では、ミクロ経済学や公共経済学を援用しつつ、環境問題発生の際の経済的要因を明らかにするとともに、環境政策における有効な経済的手段について検討を行う予定である。</p>		<p>[講義計画]</p> <p><前期></p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境問題と経済学 ・ゴミ問題と経済学 ・市場均衡と社会的総余剰 ・環境資源の特性 ・外部性 <p><後期></p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部性の内部化の理論 ・環境政策における経済的手段 ・PPPの原則 ・非枯渇性資源の経済的最適管理 ・共有資源とゲーム論 ・環境価値の経済評価 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学年末試験の成績による。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>植田和弘（著）『環境経済学』（岩波書店） 赤尾健一（著）『地球環境と環境経済学』（成文堂） P.-O.ヨハンソン（著）『環境評価の経済学』（多賀出版） C. D. コルスタッド（著）『環境経済学入門』（有斐閣）</p>		
<p>[教科書]</p> <p>特に指定しない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
中小企業論		秋学期集中	4 単位	義 永 忠 一
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>各講義時間内に一つの項目という配分で、中小企業論全般のトピックを中心に概略的な講義を行います。</p> <p>これまで中小企業論が注目してきた「問題性」の認識と、現在の課題を広く把握することを学習の目標とします。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>教科書に沿った形式で進めていきます。</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>レポート提出により成績評価を行いたいと考えています。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>渡辺幸男・小川正博・黒瀬直宏・向山雅夫『21世紀中小企業論』有斐閣、2001年。</p> <p>その他、必要に応じて提示します。</p>		
<p>[教科書]</p> <p>藤田敬三・竹内正巳編『中小企業論〔第4版〕』有斐閣、1998年。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
地域経済論		春学期集中	4 単位	芝 村 篤 樹
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>日本近代都市の形成と展開について、戦後の高度経済成長期までたどる。そして、現代都市の諸問題を考えたい。その際に、主な対象となるのは大都会である。講義室を友人の交流・団体の場と心得る諸君の入室を厳禁する。つまり、私語は禁止である。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本近代都市の形成 2. 1920・30年代の都市 3. 都市における戦前と戦後 4. 高度経済成長期の都市 5. 現代都市の課題 			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
<p>夏休みレポート、講義時の小レポート、期末試験、期末試験の比重は70%程度</p>	必要に応じて指示する。			
[教科書]				
<p>芝村篤樹 著『都市の近代・大阪の20世紀』（思文閣出版）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
地域政策論		通 期	4 単位	寺中 直人
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>この講義では、地域政策の中でも特に大都市地域における土地・住宅問題を経済学的に考える。これらの問題は、従来、建築学や生活科学の分野で、住居の物的な構造や住い方の問題として扱われてきた。しかし、上記のようなアプローチだけでは、これらの問題を生み出す土地・住宅市場の性質、市場に影響を与える税制のあり方、また問題の解決に向けて「公共」や「民間」の役割はどうかというところが適切な答えを与えることはできない。</p> <p>そこで、まず土地・住宅問題の現状と歴史を、大阪を中心に説明する。次に、基本的な概念、理論、分析方法、ツールの使い方を紹介し、政策がどのような影響を与えるかを分析する。</p> <p>履修者は、日本の近・現代史、経済学理論の初歩的知識を持っていることが望ましいが、まったく知らない人でも理解できるように、時間が許す限り基礎的なことから（数学的知識も含めて）を復習しつつ、講義を進めるつもりである。ただし、講義に対する「熱意」は不可欠である。</p>	<p><前期></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーリング 2. 土地・住宅問題の現状 3. 歴史1－高度成長期まで 4. 歴史2－70年代からバブルの時代 5. 歴史3－バブルの時代以降 6. 地価とは何か 7. 地価の決定式 8. 小テスト1 9. 小テストの解説 10. 資産市場の分析（1） 11. 資産市場の分析（2） 12. 付け値地代曲線 <p><後期></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. わが国の土地・住宅税制 2. 保有税、キャピタルゲイン税の効果 3. 土地規制・建築規制 4. 小テスト2 5. 小テストの解説 6. 住宅政策はなぜ必要か 7. 家賃規制 8. 公共賃貸住宅政策 9. 持ち家助成策 10. 家賃補助と所得補助 11. 高齢者に対する住宅保障 12. まとめ 			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
<p>学年末試験の成績を重視するが、2回ほど小テストを行い、それも参考にする。また、希望者にはレポートを課す。詳細については授業の中で説明するので、最初と最終講義は、必ず出席しなさい。</p>	<p>本間義人『住宅－産業の昭和社會史5』（日本経済新聞社、1987年） 宮尾尊徳『現代都市経済学』（日本評論社、1995年） 岩田規久男・八田達夫編『住宅の経済学』（日本経済新聞社、1997年） 金本良嗣『都市経済学』（東洋経済新報社、1997年） 伊豆宏編『変貌する住宅市場と住宅政策』（東洋経済新報社、1999年） 芝村篤樹『都市の近代・大阪の20世紀』（思文閣出版、1999年）</p>			
[教科書]				
<p>玉井金五・大森貞紀編『新版社会政策を学ぶ人のために』（世界思想社、2000年）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
産業組織論		通 期	4 単位	岡 村 誠
[講義概要・学習目標] ミクロ経済学の応用としての産業組織論を講義時、企業間の相互作用を調べる。セカンドのようなパフォーマンスを生かすという点も強調していきます。企業内部の問題（経営者と企業株主との問題、異議等）も考えます。		[講義計画] ①ミクロ経済学のサマリー：企業の特許最大化、消費者・生産者余剰、ハート効率性 ②独占企業の行動 ③寡占企業の行動 ④ゲーム理論 ⑤ R&D ⑥ 企業の参入と退出 ⑦ 情報非対称の下での企業行動		
[成績評価の方法] 定期試験と授業		[参考文献]		
[教科書] 市場と企業の経済学 新海哲哉、水野英三、石黒真吾 著 晃洋書房(2002年5月刊)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
農業経済論		通 期	4 単位	浦 出 俊 和
[講義概要・学習目標] 近年、我が国の農業を取り巻く状況は、大きく変化してきていると同時に、農業が抱える問題は複雑化している。もちろん、我が国の農業を考える場合、世界の農業の展開も無視できない。つまり、農業問題をとらえるためには、農業のもつ特質、農業の実態、世界の農業情勢を把握することが必要となる。 本講義では、まず、これら実態に関する知識を深めることから始め、その上で、経済学、特に、ミクロ経済学の理論を用いて、様々な農業に関する経済現象を分析していく予定である。 本講義が目標とすることは、各自が農業の抱える問題を正しく認識し、その将来方向について自分の考えを述べる事が出来るようになることである。		[講義計画] <前期> <ul style="list-style-type: none"> ・世界における農業問題 ・経済発展と農業の特質 ・農業生産の理論 <後期> <ul style="list-style-type: none"> ・農産物の価格形成 ・日本の農業構造 ・日本の農業政策 ・農産物の流通 ・世界の人口と食糧問題 		
[成績評価の方法] 学年末試験の成績による。		[参考文献] 佐藤津典生(著)『農業経済学』(岩波書店) 土屋圭造(著)『農業経済学』(東洋経済新報社) 庄源寺・谷口・藤田・森・八木(著)『農業経済学』(東京大学出版会) 堀田忠夫(編著)『国際競争下の農業・農村革新』(農林統計協会) 宮崎猛(編著)『グリーン・ツーリズムと国際交流—地域農業の総合力による農村の内発的発展—』		
[教科書] 特に指定しない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー フ
産業構造論		通 期	4 単位	庄 谷 邦 幸
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>現代日本産業の直面する諸問題について、各産業分野で活躍されている第一線のエコノミストに最新の資料(情報)をもとについて、講義をしていただく。</p>	<p>[講義計画]</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>1年間を4期に分け、冬期最低1つのテーマについて各講師が出題したテーマについてレポートを作成してもらう。それを総合して評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>その都度指示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>桃山学院大学編『産業構造論・資料集』 (Ⅰ),(Ⅱ)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
銀行論	0 1	春学期集中	4 単位	津 田 和 夫
	0 2	秋学期集中	4 単位	
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>銀行に関する数多くの問題を、戦後の歴史を振り返りながら様々な視角から研究し、現代の金融改革の理解を深める。</p> <p>研究対象は銀行の基本機能、金融システムの戦後史、金融政策、証券業との関係、公的金融との関係、等が基本になるが、膨大な不良債権、低金利政策の問題点、保護行政の破綻、預金者保護等、国民生活に重大な影響がある課題も集中的に採り上げる。</p> <p>改正日銀法が施行され、金融行政が衣替えし、外国為替管理法が改正(原則的な規制撤廃)され、銀行による投資信託の販売が開始され、証券会社との垣根が低くなり、さらに金融持株会社やインターネット銀行構想が実現している。こうした環境下、金融再編や異業種参入が早いスピードで進行中である。そこで、構造改革など時事問題も随時採り上げながら、論点の基本を、政府系金融機関のあり方も含めて、金融資源の適正配分に置き、常時批判と改革の方向を探る。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>教科書を中心に行う。</p> <p>さらに随時、時事問題などにつきプリントを配布し、現代社会における銀行問題を研究する。</p> <p>また、随時、NHKの録画ビデオなどを放映し、映像による理解を深める。</p> <p>多人数のため、教室での質疑は全く出来ないで、質問などはEメールで受け付け、可能な限り随時回答する。積極的参加を勧奨する。 メールアドレスは <tsudakaz@andrew.ac.jp></p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>期末試験が中心、ただし出席状況、Eメールによる質疑応答を加味する。試験終了後のレポートは一切受け付けない。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>津田和夫(著)「巨大銀行の構造」(講談社・現代親書) 日本銀行・金融経済研究所(編)「我が国の金融制度」(日本信用調査) 鈴木淑夫・岡部光明(著)「実践ゼミナール日本の金融」(東洋経済新報社) 高木仁、高月昭年著「入門、日本の金融機関」東洋経済新報社、2000年4月 津田和夫著、日本の金融制度と銀行経営、桃山学院大学総合研究紀要 24巻3号1999年3月 津田和夫著、抵当証券をめぐる諸問題、桃山学院大学総合研究紀要 25巻1号、1999年9月 津田和夫著、日本の機関投資家、桃山学院大学経済経営論集 42巻第2号2000年11月と第3号2001年1月</p>			
<p>[教科書]</p> <p>津田 和夫(著)「改訂・現代銀行論入門」(経済法令研究会)2001年第2刷</p>				

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
都市政策論		通期	4単位	中村 征之
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>「都市は文明の容器である」という。それは人間の創造物であり、政治的、社会的、経済的な実に様々なシステムを備えている。しかし、単に生産と消費の場であることだけに、とどまっている訳ではない。それは「器」の中で展開される多種多様な活動を総合・調整する公的な行為としての都市政策の存在を欠いては存在しない。すなわち、都市の諸システムを管理する市民の「自治の営み」の場でもあるのだ。講義ではまず、そのような都市政策の諸機能を、市民の「共和的なもの」を実現する自治の構造の中から、論理的に把握することを求める。続いて、資本主義体制下における都市問題の発生構造に目を向け、その解決を図る「都市型政治」の足取りをたどり、今日的課題である地方自治の理解を深める。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>学生自身が自分の生活の場である空間に目を向け「都市とは何か」と、まず問を發し、そこから自らの課題を引き出し、その理解に向かう「論理」を用意する手助けをしたい。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>前、後期の定期テスト、レポートで判断する。</p>	<p>[参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「都市の類型学」マックス・ウェーバー（創元社） ・「都市の文化」ルイス・マンフォード（鹿島出版会） ・「都市政策の思想と現実」宮本憲一（筑摩書房） ・「近代の政治思想」福田歓一（岩波新書） 			
<p>[教科書]</p> <p>「都市の政治学」加茂利男（自治体研究社）</p>				

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
商法 I	01	通期	4単位	牛丸 與志夫
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>会社のうち、特に、株式会社の法規制を講義する。株式会社の設立、株式、運営機構、計算、資金調達および基礎的変更についての規制を講義する。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>前期に、設立、株式まで、講義を行う。後期に、残りの部分を行う。練習問題を解きながら、講義を進める。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>試験</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>1, 蓮井良憲・森淳二郎著『会社法（最新版）』（新商法講義2）（法律文化社）</p> <p>2, 『ポケット六法』（有斐閣）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
商法Ⅰ	02	秋学期集中	4 単位	吉 見 研 次
[講義概要・学習目標] この講義では、商法のうち会社法について講述する。『商法概論』でも会社法の基本的なしくみを説明しているが、本講義ではより詳細に会社法の諸問題を説明していきたい。最高裁判例も特に重要なものは紹介検討するつもりである。それだけに多少とも難解な内容になることは避けられないが、学習意欲の強い学生諸君の受講を期待したい。 なお毎授業時に『六法』を携帯すること。私語も遅刻も厳禁。教科書、参考文献の使用法については1回目の授業の際に言及するので、購入はその話を聞いてからにすること。その他受講時の留意事項につき、最初の授業時に述べる予定である。	[講義計画] Ⅰ 会社法総論 (1)会社の性質 (2)会社の種類 (3)法人成り Ⅱ 株式会社法 (1)設立(設立手続、定款、仮装払込等) (2)株式(株主の権利義務、株式譲渡、自己株式の取得) (3)株主総会(総会の権限等、総会決議、決議の瑕疵) (4)取締役・取締役会(取締役、取締役会・代表取締役、取締役の義務、取締役の責任) (5)監査役・会計監査人 (6)資金調達(新株発行、社債) (7)計算(計算書類、資本・法定準備金、利益配当) (8)基礎的変更(合併・営業譲渡、その他の変更) Ⅲ その他の会社法 (1)有限会社法 (2)合名会社法 (3)合資会社法			
[成績評価の方法] 学期末テストを実施するか、正誤文選択等の短答式にするか、論述式にするかは未定である(できるだけ早く決定し、授業時間中に公表する)。	[参考文献] 平井宜雄他編『ポケット六法 平成14年版』(有斐閣) 田村諒之輔他編『目で見える商法教材 第3版』(有斐閣)			
[教科書] 岩崎俊他『セミナー商法』(日本評論社)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済法		通 期	4 単位	松 宮 広 和
[講義概要・学習目標] 我が国における経済法の基本法である「独占禁止法」(独禁法)の構造、及びその現実の社会における機能についての一般的な基礎知識を獲得することを、年間を通じての目標とします。また、独禁法と密接に関係する法分野である知的財産法及び国際経済法についても、同じく基礎知識の獲得を目的に解説を行います。より、具体的には、経営学を専攻する方々が、将来社会における経済活動に従事する際に最低限必要となるであろう経済法に関する知識を習得することを旨として講義を進めます。経済法と現実の社会との接点を見極める視点を養成するために、現実の社会における具体的な問題提起の素材として、独禁法に関連する新聞記事等の具体的事案も適宜取り上げます。講義は平易であることを目指し、法律科目の既登録者はもちろん、法学の初学者の参加も歓迎しますが、その様な場合には、私法科目の登録及び日常の予習・復習等によって、講義の理解を深める様に心がけて下さい。	[講義計画] <春学期> 春学期は、我が国における経済法制度において中心的な役割を果たしている独禁法についての解説を行います。より、具体的には、市民革命以後に成立した私法の基本原則が修正される過程において、経済法という法分野が誕生してきた意義をその歴史的背景から明らかなものとした上で、実体法としての独禁法についての解説を行います。 <秋学期> 秋学期の前半では、春学期に引き続いて、独禁法についての解説を行います。その後、独禁法と密接に関係する法分野である知的財産法及び国際経済法についても、基礎知識の獲得を目的に解説を行います。なお、年度末には、2回程度の講義で1年間の復習を行います。			
[成績評価の方法] 期末試験の成績が中心です。出席を採る場合、小テストを実施する場合もあり得ますが、期末試験が評価の中心であることには変わりません。	[参考文献] J. H. シェネフィールド・I. M. ステルツァー(著)、金子晃ほか(訳)『アメリカ独占禁止法-実務と理論』(三省堂 1999年)。 小野昌延『知的財産法入門-特許・商標・著作権の常識-(第3版)』(有斐閣 1998年)。 その他、必要に応じて適宜指示します。			
[教科書] 根岸哲『経済法』(放送大学教育振興会 2000年)。 六法。独禁法を含むものを各自で準備して下さい。可能ならば、特許法、著作権法及び商標法までが含まれているものが理想的です。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
比較経済体制論		秋学期集中	4 単位	上野 勝男
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>「ソ連(ロシア)経済はどんなもの?」ときかれましたら、少し勉強した諸君ならば次のように答えるだろうか。つまり、旧ソ連では企業活動の自由がなく、命令でがんじがらめに縛られ、消費者は選択の余地もなく、また商品はいつも不足していた。こうした「社会主義的計画経済」が行き詰まったために崩壊して、いまでは「体制転換」といわれて、西側と同じような「市場経済」=資本主義のシステムへ移行しつつある途中だ、と。</p> <p>たしかに「社会主義から資本主義への移行」というのはわかりやすい。でも、長引く不況、倒産、最悪の失業率、金融不安という状況にあるわたしたちの国日本も「市場経済」=資本主義だということを思うと、少し考え込んでしまいませんか?。こんな矛盾だらけの資本主義が永遠に続くシステムなのか?、と。それに、社会主義とは、本来、資本主義の矛盾を克服する体制だったはずなのに、なぜソ連はあんなふうにも崩壊したのか?。崩壊したのは本当に「社会主義」体制のためだったのか?等々。この講義では、こうした疑問をじっくり考えることを目標として、①旧ソ連の経済体制をどう考えるか、②社会主義とは本来どのようなものか、③わたしたちの生きる現代資本主義にとって社会主義はどのような意味をもつか、④ロシア・東欧諸国で進行する「体制転換」をどう考えるかをポイントにしてすすめます。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>序 論 「比較経済体制論」とは?</p> <p>第Ⅰ部 社会主義とは何か?</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 資本主義の基本矛盾 2. 現代資本主義と民主主義 3. 社会主義的将来の本質と発展 <p>第Ⅱ部 ソ連経済史概説-「社会主義経済」だったのか?-</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 十月革命 5. ネップ(新経済政策)の試み 6. ソ連社会の大転換 7. ソ連経済の構造と矛盾 8. ソ連型経済制度とソ連社会の特質 <p>第Ⅲ部 「体制転換」の虚像と実態</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. ロシアにおける「体制転換」 10. 未来はどこに 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>資料プリントを頻繁に配布します。また、講義への出席をとくに重視します。試験・レポートなどとあわせて、総合的に成績を評価します。講義の進め方・評価方法を知る上で、第1回目の講義は必ず出席してください。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>E.T.ガイダール(上野ほか訳)『経済改革とヒエラルキー構造』(晃洋書房)</p> <p>浅羽・瀧澤編著『世界経済の興亡200年』(東洋経済新報社)</p>			
<p>[教科書]</p> <p>使用しません。しかし、右に示した重要な参考文献とともに、随時参考にするべき文献は指示します。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際金融論		春学期集中	4 単位	一ノ瀬 篤
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>以下の順序及び内容で講義を進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 国際金融とは何か (2) 国際通貨と国際通貨体制 <ol style="list-style-type: none"> ①金本位制度 ②ブレトン・ウッズ体制 ③変動相場制 (3) 外国為替相場と外為市場 (4) 国際収支と為替相場 <ol style="list-style-type: none"> ①経常収支と為替相場 ②資本収支と為替相場 (5) 変動相場制と為替政策 <p>外為取引、為替相場変動、国際投資など国際金融に関する基本的知識を身につけることを目標とする。とくに関係業務に就いた際や日常生活で役立つように制度や統計の見方など現実的な観点を大事にしたい。</p>	<p>[講義計画など]</p> <p>ほぼ毎回、講義レジメを配布して、これに基づいて説明する。</p> <p>国際金融は現実自体がこみ入っているの、何よりも分かりやすい講義を心がけたい。受講者には、教科書として指定した書物(重要な内容が、最も平易に書かれている)によって、予習や復習に心がけて頂くよう求めたい。理解度が倍増する。</p> <p>抽象的理論以上に、制度や実務、歴史などにかんする知識の蓄積が重要な分野なので、勉強のし甲斐もあるし、努力に正比例して、目標達成感も得やすいだろう。大学時代に、専門的知識を身につけよう!</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>短答形式で中間試験を行い、これと期末試験(論文式)の結果を等分に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>上川孝夫・藤田誠一・向寿一編『現代国際金融論』(有斐閣、1999年)</p>			
<p>[教科書] 秦忠夫・本田敬吉『国際金融のしくみ』(有斐閣、1996年)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際経済論		秋学期集中	4 単位	三 邊 信 夫
[講義概要・学習目標] この講義では、国際経済学の基礎理論を解説する。国際経済学は、国際間における取引 (trade) つまり貿易に関する事柄を研究対象としている。取引である限り最低2つの国 (または2人) および2つの財貨の存在が必要である。貿易は両国間の効用関数の差異 (つまり両国民の間の趣好の差異) があれば行われるが、その財貨が生産物である場合、生産関数が問題となる。財貨を生産する技術や生産要素、つまり労働や資本の要素賦存量の国際的差異を考えに入れてはならない。価値または価格という場合も生産物間の交換比率だけではなく、生産要素間の交換比率つまり要素価値比率 (または分配率) および両者の間の関係が考慮されねばならない。さらにこれらの基礎的条件が変化した場合、具体的には、技術進歩や資本蓄積、労働人口の増加が行われたとき、交易条件やその国の生活水準に及ぼす影響なども分析される。	[講義計画] 1. リカード比較生産費説と賃金決定 2. 商品交易条件と要素交易条件 3. 交換経済、オファー曲線、貿易利益 4. 均衡の安定性、マーシャル・ラーナーの安定条件 5. 生産論、等生産量曲線と生産可能曲線 6. 貿易方向の決定、ヘクシャー・オリーオン理論、[国の規模、技術進歩 7. 要素価格均等化、リプチンスキイ効果、ストルパー・サムエルソン理論 8. 国際貿易における双対関係 9. 比較生産費基準と所得弾力性基準 10. 経済成長と交易条件			
[成績評価の方法] 試験、出席	[参考文献]			
[教科書] 三邊信夫 (著) 『国際貿易と経済成長理論』 (大阪市立大学経済学会)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
アジア経済論		春学期集中	4 単位	巖 善 平
[講義概要・学習目標] 数年前、「21世紀はアジアの時代」という喧伝は日本では盛んであった。しかし、そのアジアは、タイのバーツが下落した 1997 年 7 月以降、深刻な通貨・金融危機に見舞われた。一時期、アジア経済の過去が幻のものだという批判は人々の関心を集めた。しかし、1998 年後半から、危機に陥ったアジアの国々は経済の再建に着手し、非常に短い間に経済の回復を実現し、再び世界経済の成長を牽引するようになりつつある。 アジア経済の成長がいったい何によりもたらされたのか、今回の経済危機はどうして生じたか、今後のアジア経済の可能性は如何なるものであろうか。 本講義では、東アジアと東南アジア各国の経済成長と構造変化、経済的な相互依存関係の現状、形成過程と問題点などについて、開発経済学の理論的枠組みに沿いながら、分かりやすく解説する。	[講義計画] I 西太平洋地域経済のパフォーマンス 1. 東アジア、東南アジア経済の過去といま 2. 西太平洋地域における雁型経済発展のメカニズム 3. 西太平洋地域における経済の成長と構造変化と相互依存 4. アジア経済の未来をどう見るべきか II アジア経済の捉え方 1. 経済開発の基本的課題 —— 発展の目的は何か 2. 伝統産業=農業と近代産業=工業 —— 工業化戦略のあるべき姿 3. 経済開発と援助・貿易・投資 —— 先進国の役割とは 4. 後発国における経済開発と政府の役割 —— 開発独裁が必要悪か 5. 経済開発はすでに限界に達したか —— 環境制約をどうするか			
[成績評価の方法] 中間レポート+期末試験	[参考文献] 随時配布。			
[教科書] 渡辺利夫『開発経済学入門』 (日本評論社 2001 年)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ヨーロッパ経済論		通 期	4 単位	棚 池 康 信
[講義概要・学習目標]	<p>この講義ではヨーロッパの経済統合（EU）について論じてゆく。EUでは本年共通通貨ユーロの紙幣とコインが発行され、従来の国民通貨はすでに姿を消している。この共通通貨の導入は、ヨーロッパ各国の市場が一体化し、ヨーロッパ企業がヨーロッパ市場を単一のものとして行動しつつあることが前提となっている。また、経済政策も多くの分野で共同体やECB（欧州中央銀行）に権限が移されている。このようにEUは経済統合の面ではきわめて高い段階に到達しており、さらにそのディメンションは政治統合から、市民的統合の側面を加えつつある。また、中東欧諸国を中心に加盟国の増加が予定されており、ヨーロッパの一体的空間は今以上の経済的・政治的重要性をもつことになる。このようなヨーロッパ経済統合の現状を理解することがこの講義の課題である。ユーロを導入したヨーロッパ経済の現状は実に興味深い。単なる現状理解にとどまらず、歴史的過程と国際経済環境の中に、現状を立体的に位置付けることを目標とする</p>			
[成績評価の方法]	<p>春学期・秋学期末の試験によるが、経過によっては授業中の小テストを実施する。</p>			
[教科書]	<p>内田勝敏・清水貞俊編著『EU経済論』</p>			
	<p>[講義計画]</p> <p>春学期 市場統合とユーロの導入 秋学期 EUのディメンション</p> <p>1. ユーロ序論 1. 単一金融市場</p> <p>2. EUの制度と機構 2. 国境を越えた企業活動</p> <p>3. 市場統合の過程 3. 欧州横断ネットワーク</p> <p>4. 経済通貨同盟へ 4. 共通農業政策</p> <p>5. 苦難の過程 5. 対外関係</p> <p>6. 市場統合への再挑戦 6. 市場統合の現状</p> <p>7. 新たな統合段階 7. 政治統合</p> <p>8. ユーロの過程 8. 市民的統合</p>			
	<p>[参考文献]</p> <p>田中素香他『現代ヨーロッパ経済』有斐閣 島野卓爾他編『EU入門』有斐閣 清水貞俊『欧州統合への道』ミネルヴァ書房 上野秀夫他『国際経済論』ミネルヴァ書房</p>			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
アメリカ経済論		通 期	4 単位	中 本 悟
[講義概要・学習目標]	<p>本講義は、現代アメリカ経済の構造と発展について、いくつかの領域に分けて講義する。アメリカ経済において生じたことは、遅かれ早かれ日本においても生じてきた。</p> <p>しかし、アメリカで生じたことが同じ形で日本やアジアで生じているわけではない。アメリカにはアメリカ固有のイデオロギー、行政機構、経済法、経済制度があり、日本やヨーロッパとは異なった形態で問題が生じ、したがってまた異なった解決がなされることが多い。こんにちの主流派の経済理論がアメリカ経済を土台として書かれており、この意味では、日本ならびにアジア経済の研究を土台に経済理論の創造的発展が求められていることも、本講義を通じて理解できよう。</p> <p>本講義では、それぞれの主題について、問題の構造と歴史的展開、現状、政策課題について解明する。またアメリカ経済の比較制度的な研究を重視するアプローチで講義する。本講義によってアメリカン・スタンダードを知ることは、日本経済の改革を考える上でも有意義である。</p>			
[成績評価の方法]	<p>夏休み明けのレポートと年度末の筆記試験を総合的に判定する。</p>			
[教科書]	<p>前期は、講義概要に基づいて講義する。 後期は、中本 悟『現代アメリカの通商政策』（有斐閣）を利用する。 テキスト通りに講義するので、事前に購入しておくこと。</p>			
	<p>[講義計画]</p> <p>講義は、概ね国内経済を前期に、対外経済関係を後期に、それぞれおこなう。各主題とも2回程度の講義である。</p> <p>I部 アメリカ経済の基本構造 II部 アメリカ経済の対外経済関係</p> <p>①産業構造と企業経営 ⑧アメリカの貿易構造</p> <p>②多国籍企業とアメリカ経済 ⑨国際通商法と国際貿易体制</p> <p>③軍産複合体とハイテク産業 ⑩アメリカの貿易匡正法と通商政策</p> <p>④農業とアグリビジネス ⑪多国籍企業と通商政策</p> <p>⑤金融市場の発展と金融革新 ⑫NAFTAとアメリカ経済</p> <p>⑥財政制度と財政政策 ⑬日米貿易摩擦の歴史と現状</p> <p>⑦「ニューエコノミー」論の検討</p>			
	<p>[参考文献]</p> <p>横田 茂編『アメリカ経済を学ぶ』（世界思想社）</p>			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
中国経済論		秋学期集中	4 単位	敵 善 平
[講義概要・学習目標] マスメディアの発達によって、日本における中国の様々な情報が氾濫するほど多くなっている。しかし、中国が近くて遠いという人は決して少なくはない。 過去 20 余年、中国は内部の体制改革と対外開放を国策に掲げ、経済の発展をすべての政策の中心に据えた。その結果、年平均 10 % 近くの経済成長が遂げられ、世界経済における存在感が著しく高まった。日本を含む世界各国との様々な関係が一層緊密化している。しかし一方では、急変する中国社会の中には多くの問題や矛盾も目立っている。 本講義では、現代中国経済の仕組み、成長と構造変化のダイナミズムについて、現地調査の生の情報やドキュメンタリーの映像資料を活用しながら、分かりやすく説明する。まず中国社会主義経済の成立→運営→改革の軌跡を簡単に触れる。次に中国経済の市場化改革と国際化の現状を説明し、世界の工場にまで成長した中国の主要産業の実力を明らかにする。最後に世紀を跨ぐ難題である中国の農民・国家関係、都市・農村の格差問題、食料問題などについて解説し、近代的国民国家に移行する可能性を展望する。	[講義計画] I 毛沢東時代の中国経済 1. 中国社会主義経済の成立から改革までの軌跡——社会主義改造 2. 経済の成長メカニズム——農工関係の政治経済学 3. 社会経済の基本的仕組み——国営企業、人民公社 4. 社会主義経済を支える制度的基礎——戸籍制度、食糧制度、等 II 鄧小平時代の中国経済 1. 経済体制改革のプロセスとパフォーマンス——漸進的改革が良かったか 2. 世界の工場としての中国——経済の国際化はどこまで進んだか 3. 市場経済化を推進する主役達——郷鎮企業と私営企業はいかに成生、成長したか 4. 「均富論」から「先富論」への方針転換とその結果——格差はどう見るべきか 5. 人口・食糧・資源・環境問題のいま——持続可能な成長を制約するものは何か 6. 「農民国家」の行方——都市・農村格差は解消するか			
[成績評価の方法] 中間レポート+期末試験	[参考文献] 王曙光ほか編『最新教科書・現代中国』（柏書房 1998年） 南亮進・牧野文夫編『中国経済入門』（日本評論社 2000年） 関連資料の随時配布を行う。			
[教科書] 敵善平『中国の世紀的課題——農業と農民問題の諸相（仮題）』（名古屋大学出版会）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
商法Ⅱ		通 期	4 単位	牛 丸 與 志 夫
[講義概要・学習目標] 手形法及び小切手法の基礎的な知識の修得をめざす。手形の振出、裏書及び支払等、為替手形の特則並びに小切手の特則を講義する。	[講義計画] 前期で、手形の振出に関する様々な問題を考察する。後期で、残りの問題を講義する。練習問題を解きながら、講義を進める。			
[成績評価の方法] 試験	[参考文献]			
[教科書] 1. 田中昭その他五名著『テキストブック手形法・小切手法（最新版）』有斐閣ブックス（有斐閣） 2. 『ポケット六法』（有斐閣）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
行政法		通期	4 単位	寺田 友子
<p>[講義概要・学習目標] 行政法とは、日本国憲法が規定する権力分立の下での行政の組織、作用及び手続に関する法全体をいう。日本国憲法は、生存権の保障等、種々様々な行政活動を要請している一方、行政の組織及び活動に関しては原則上、法律で規律することを要求している。しかし、法律を中心とする行政法は一律でないために、基本とする法典も存在せず、法令の数も非常に多い。この多様で広範にわたる行政法を総合的に認識するために、行政法学は抽象的な学問的概念を駆使して理論体系化を行ってきた。本講義は「行政をその行為形式によって把握し、説明する」伝統的な行政法の理論体系に基づいて、その行為形式中、最重要と解されてきた「行政行為」概念を中心に、その他の行為形式をも含めて理解を深めることを目標とする。その際、行政行為概念の基盤には取消訴訟が存在する。その帰結である判決を検討することによって、行政の執行過程についても理解を深めたい。その際、情報公開制度についても認識したい。また、行政の違法行為に対する救済手段である取消訴訟における問題点等について理解を深めたい。また、行政の違法行為によって生じた国民の損害に対する救済手法についても検討したい。とともに、事後的救済だけでは十分に救済されないため、行政手続法に代表される事前手続についても理解を深めたい。 基礎知識を確実に理解するために、択一問題等を適宜解答してもらおう。</p>		<p>[講義計画] 前期 行政法の基礎的問題 §1 取消訴訟の一つの判決 2 行政と行政法 3 法律による行政法の原理 4 行政組織と行政立法 5 情報公開制度 6 行政救済法の概略 7 行政行為の概念 後期 行政行為と行政過程 §8 行政行為の種別 9 行政手続 10 行政行為の瑕疵 11 職権取消と撤回 12 行政計画 13 行政強制 14 行政調査 15 行政指導</p>		
<p>[成績評価の方法] 基本的には、前期及び後期に行うテストで成績評価を行うが、レポート提出出席、及び授業時間内に行うテスト等も評価に加味する。</p>		<p>[参考文献] 『行政法判例百選 I・II (第4版)』有斐閣 塩野宏『行政法 I』有斐閣 原田尚彦『行政法要論』学陽書房 芝池義一編『判例行政法入門(第2判)』有斐閣</p>		
<p>[教科書] 小高剛『行政法総論(二版)』2001年 ぎょうせい 『ポケット六法 平成14年版』(有斐閣)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済と法コース特講 (犯罪と刑罰：各論)		春学期集中	4 単位	辰 井 聡 子
<p>[講義概要・学習目標] 現行の刑罰法規が具体的にどのような行為を犯罪として規定しているか、実際の裁判ではその法規がどのように解釈・適用され、何がどのように処罰されているかを知り、現代社会においてどのような行為をどう処罰するのが適切であるかを考えるための方法を学ぶ。犯罪の基本類型を規定する刑罰法の解釈を中心に、経済犯罪、環境犯罪などの現代的な犯罪、立法の動向などにも触れながら、犯罪への対応について総合的に考察することにした。</p>		<p>[講義計画] 講義の前半には法律学および刑法学入門の要素を交えながら、刑法典の解釈を中心に刑法解釈の基礎を学び、後半では、特別法や新しい立法の動向を幅広く取り上げる。基本的に教科書の順序に沿って進むが、特に後半は受講生の関心も考慮しながら適宜内容を決定していきたい。</p>		
<p>[成績評価の方法] 学期末の筆記試験による。</p>		<p>[参考文献] 講義中に指示または配布する。</p>		
<p>[教科書] 町野朔・中森喜彦編『刑法2 各論 [有斐閣アルマ]』(有斐閣)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済と法コース特講 (犯罪と刑罰：総論)		秋学期集中	4 単位	辰 井 聡 子
[講義概要・学習目標] 故意・過失の内容、共犯成立の要件等、全ての犯罪に共通する要素を定める刑法総則の解釈を中心に、犯罪処罰の基本的な考え方を学ぶ。判例、学説による現行法解釈の他、犯罪とは何か、刑罰とは何かについての考え方の歴史、最新の立法についても取り上げ、現代における刑法の役割、刑罰の意味について考察する。法律学、とりわけ刑法学の特徴である体系的・論理的な思考方法を身につけることも、目的の一つである。犯罪と刑罰 各論をあわせて受講すると、より総合的な理解が可能になると思われる。	[講義計画] 基本的に教科書の順序で行う。判例、各種文献等様々な素材を用い、随時新しい動きも取り上げていく予定である。			
[成績評価の方法] 学期末の筆記試験による。	[参考文献] 講義中に指示または配布する。			
[教科書] 町野朔・中森喜彦編『刑法1 総論〔有斐閣アルマ〕』（有斐閣）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済と法コース特講 債権回収手続法		秋学期集中	4 単位	本 間 法 之
[講義概要・学習目標] バブル経済崩壊後の長引く不況の中で、倒産事件数は増大し続けています。自分の会社の取引先が破綻したとき、どのようにして債権の回収をはかればよいのか、また、不幸にして自分が多額の債務を抱えて経済的破綻に陥ってしまったとき、どのようにすればよいのか。本講義では、破産、民事再生、会社更生など、債権回収の最終手段たる倒産処理手続を中心に、法的債権回収の手続について概説します。	[講義計画] ① 倒産法制と私的整理 ② 個別執行（民事執行）と包括執行（倒産処理） ③ 倒産処理手続の開始 ④ 倒産処理手続における債権の処遇 ⑤ 倒産処理と担保権 ⑥ 倒産処理手続と倒産債務者をめぐる法律関係 ⑦ 否認権 ⑧ 倒産処理手続の終了 ⑨ 消費者の破産・免責・個人債務者の再生手続 ⑩ 民事再生と会社更生 ⑪ 企業再生と M&A ⑫ 国際倒産			
[成績評価の方法] 成績は、①平素の勉学状況（講義への出席・課題等の提出・受講態度）と②期末考査の成績とを総合的に評価します。特に①に重点を置いた評価を行います。	[参考文献] 講義の際に、適宜紹介します。			
[教科書] 青山善充ほか著「破産法概説～倒産処理法の基礎～（新版増補2版）」（有斐閣双書）¥2000- なお、講義に際しては、平成14年版の「六法」を常に携帯して下さい。 「六法」の種類は問いません。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
<p>経済と法コース特講 民事訴訟法</p>		春学期集中	4 単位	本 間 法 之
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>民事訴訟法の判決手続について概説します。例えば、君が本当にお金を貸したのに、相手が「あれは貰ったので、借りたのではない」と居直ったらどうなるか。民法の世界では当然返してもらえないはずのお金、相手からすれば返さなければならないはずのお金も、訴訟法の世界でその権利や義務が認められなければ、結局は返ってこなくなってしまう場合があります。本格的な訴訟社会の到来を迎えて、明確な訴訟戦略をもたない企業・団体は続々と崩壊し、自分の権利を適切な手続の下で実現できない個人は、ますます社会の片隅に追いやられていくかのように見えます。権利実現の鍵となる民事訴訟法を学ぶことによって、初めて権利の何たるかが理解できるといっても過言ではありません。</p>	<p>[講義計画]</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 訴訟の対象（訴えと請求、訴訟物） ② 訴訟の開始（訴え提起とその効果） ③ 訴訟要件（訴えの利益） ④ 訴訟の主体（裁判所・当事者・代理人） ⑤ 判断対象の設定と判断資料の提出（処分権主義） ⑥ 訴訟の進行（職権進行主義） ⑦ 訴訟手続の中断・中止 ⑧ 争点整理手続 ⑨ 口頭弁論と弁論主義 ⑩ 口頭弁論における当事者の態度 ⑪ 証拠（証拠調べ・自由心証主義・証明責任） ⑫ 終局判決による訴訟の終了 ⑬ 判決の効力（既判力・執行力・形成力） ⑭ 判決効の拡張 ⑮ 当事者による訴訟の終了 （訴えの取り下げ、請求の放棄・認諾、訴訟上の和解） ⑯ 複雑な訴訟（請求の複数、多数当事者訴訟、参加） ⑰ 訴訟承継 ⑱ 上訴・再審 ⑲ 国際民事訴訟—国際私法との交錯 ⑳ 裁判外紛争処理手続（ADR）と民事訴訟 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>成績は、①平素の勉学状況（講義への出席・課題等の提出・受講態度）と②期末考査の成績とを総合的に評価します。特に①に重点を置いた評価を行います。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>講義の際に、適宜紹介します。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>林屋礼二ほか著「民事訴訟法入門」（有斐閣双書）¥2000 なお、講義に際しては、平成14年版の「六法」を常に携帯して下さい。 「六法」の種類は問いません。</p>				

「社会学科文献演習」クラス一覧

クラス	担当者	ページ	クラス	担当者	ページ
01	片桐 新自	370	05	捧 堅二	371
02	片桐 新自	370	06	清水 夏樹	372
03	金児 暁嗣	370	07	野々山 久也	372
04	小牧 一裕	371	08	藤森 勉	373

1. ゼミナール形式で授業を行うため、定員を30名とします。従って応募者が定員を超えた場合は、クラスへ参加できないことがあります。
 2. どのクラスも出席を重視します。一定の成果をあげるために、授業への継続的な出席が欠かせないからです。
 3. 学則上、この科目は社会学部社会学科教育科目「学科選択科目（4単位）」に位置づけられています。
 4. 履修登録にあたっては以下のとおり事前に**予備登録（先着順受付）**が必要です。
 対象者：01SS生（社会学部社会学科2回生）
 定員：30名
 日時：3月23日（土） 9:10～13:00（昼休憩なし）
 場所：学務課窓口
 申込方法：先着順に受付決定します。学務課窓口で申込書を受け取り、必要事項を記入の上提出してください。
- <注意> 申込みにあたっては、事前に授業時間割表で希望クラスの曜日・時限・時間割コードを確認しておいてください。
 学生証がないと受付できないので、必ず持参してください。

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学科文献演習	01 02	通 期 通 期	4単位 4単位	片桐新自
[演習概要・学習目標] 少人数クラスの特徴を生かし、相互的コミュニケーションを繰り返すことで、多人数講義ではできない学習を行う。具体的には、受講者が指定された文献をきちんと読み、レジュメを作り、報告をし、議論をするということが主になる。他にも、現代社会で生じている様々な問題に関しても議論をし、社会的に考えていく訓練も行う。 具体的に取り上げるテーマは、「歴史的環境」である。我々は、日頃歴史を実感することなく生きているが、もちろん実際にはすべての人間は歴史の中で生きている。そうした歴史を感じることができるのが、歴史的環境である。なじみのある言い方では、「古都」や「古い町並み」ということになるだろうか。しかし、「歴史的環境」はもっと広く捉えることが可能だし、またそう捉えるべきである。「歴史的環境」概念を広く捉え、それを守るための活動や、それを現代社会の中でどう生かしていくのか、様々な事例を通して学んでもらう。	[演習計画] とりあえず、前期は、片桐新自編『歴史的環境の社会学』新曜社を輪読する。それとともに、現在生じている様々なニュースについての発表と議論を行う。受講人数と受講者のレベルに合わせて、夏期休暇中の課題や後期の計画は決めていく。			
[成績評価の方法] 平常点（出席、報告の仕方、レジュメの出来、議論への参加度とレベル）とレポートで、評価を行う。	[参考文献] 必要に応じて指示する			
[教科書] 片桐新自編『歴史的環境の社会学』新曜社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学科文献演習	03	通 期	4単位	金 見 暁 嗣
[演習概要・学習目標] 就職商法といって、求人をかたって人を集め、実際は商品を売るのが目的の悪質商法がある。こういう手合いにだまされる人が案外多いが、それはどうしてだろうか。他にもいろんな悪質商法がある。自己開発セミナーと称して、「あなたの生き方を問い直しませんか」と悩みをもった人を誘う擬似宗教のたぐいもそうだ。そこには、いわゆる社会的影響という社会心理学上の諸問題が豊富に含まれている。 この演習ではテキストの講読をつうじて、上に述べたような、私たちが知らない間に影響を受けるメカニズムに関する理論の理解を学ぶことを目的とする。	[演習計画] 教科書の章にしたがって、各自が分担の章の概要について、また、授業中に指示した重要関連文献について、レジュメを作成して発表する。章立ては以下のとおりである。 1. 影響力の武器 2. 返報性 3. コミットメントと一貫性 4. 社会的証明 5. 好意 6. 権威 7. 希少性 8. 手っとり早い影響力			
[成績評価の方法] 発表内容と議論への参加の程度を考課の材料とする。	[参考文献] 適宜指示する。			
[教科書] R. B. チャルディーニ（社会行動研究会訳）『影響力の武器 ―なぜ、人は動かされるのか』 誠信書房、1991年				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学科文献演習	04	通期	4単位	小牧一裕
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>社会心理学に関する文献・論文を読み、その理論と研究技法を学ぶ。人間の社会的行動について、その法則性を探り、理解を深める。ゼミ形式による学生参加型授業であるため、授業への積極的参加が不可欠である。</p>	<p>[演習計画]</p> <p>社会心理学の基礎的な文献及び論文を輪読し、それについて議論を行う。また、実際に簡単な調査票を作成し、研究技法についてもその基礎を学習する。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>積極的な授業への参加、レジュメ、発表、出席などを総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>対人社会心理学重要研究集 1～7 誠信書房</p>			
<p>[教科書]</p> <p>必要に応じて指示する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学科文献演習	05	通期	4単位	捧 堅 二
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>日本と戦争がテーマである。</p> <p>全員が関連する書物を10冊以上読むのが目標であり、この授業はそのための支援でしかない。</p> <p>毎回の授業は、過去のことを単に「過去」のこととして認識するのではなく、「現在」にかかわる論争点として把握することにポイントをおいて、歴史上のテーマについての基本的な解説と、さまざまな論争点の説明を行うのが中心だが、必要に応じてビデオ映像の鑑賞も実施する。また短い参考資料（複写物）を読んでもらい短い文章を書いてもらったりすることもある。</p>	<p>[演習計画]</p> <p>昭和の歴史を終戦まで見てゆく。</p> <p>戦争責任問題や「歴史修正主義」についても</p> <p>紋切り型の「二項対立」を超えた視点に立って</p> <p>検討する計画である。</p> <p>真珠湾攻撃、731部隊、満州国、昭和天皇、2・26事件、北一輝、小林よしのり、J・G・バラード、高橋是清、など。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席重視。</p> <p>10回程度のレポートと小テストによる。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>講義の際、随時、印刷物によって、多数の参考文献を紹介する。</p> <p>その中から選択して10冊以上の本を読んでもらう。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>江口圭一『二つの大戦（体系日本の歴史・第14巻）』小学館、951円 教科書というよりも、昭和史についての基本的知識を共有するための本として全員が購入し、毎回持参すること。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学科文献演習	06	通 期	4 単位	清 水 夏 樹
<p>[演習概要・学習目標] 高度消費社会化と情報化にまつわるトレンディ・エポックを おさなから近・現代の流行文化の諸相をさぐる。そのさい 一、「モード」の古典的・最新的両義性 一、時代認識と射程感覚 をふまえて、個々の流行現象と社会・世相との反映関係に 眼を向けること。 いる、大きくは戦後50年史をいくつかの視角から願ひる好機 であり、他方、世紀のふし目としての90年代末・前後という立脚 点を照射する必要に迫られてもいる。このような問いかけを以 て、メイン文化を支えるカウンターサイド(外野帯)から社会 の動向をよみとく試みにチャレンジしてほしい。</p>	<p>[演習計画] 前期:「モード」の今昔ほか「聖・俗・遊」三層フレーム、「記号」論等の 基本コンセプトを習得する。 中期:消費社会における流行の諸相に向け、上記基礎概念の 適用と吟味、各自の関心項目にそった資料の検討 後期:如上、概要コンセプトの再解釈を試みつつ、最終作業に 向けての補充研究にあてる。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p>	<p>[参考文献] 参照すべき論考、資料ノートは各自が收拾するものよりの 多数用意する。</p>			
<p>[教科書] 進んで随時指示する</p>				

社
会
~01

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学科文献演習	07	通 期	4 単位	野々山久也
<p>[演習概要・学習目標] この文献演習では、家族についての社会学的知識を学習することを目的に している。ここでいう家族は、集団としての家族である。テキストであるカンタ ーとレアによって著わされた『家族の内側』は、観察法によって研究された成 果を家族システム論として展開している。フロイトの精神分析の理論を彷彿さ せるような、詳細な家族システムのメカニズムの分析を展開させている。家族 についての臨床的アプローチの基礎理論を提示しているといつてよい。 専門書を読むことは、たしかに小説や週刊誌を読むのとは違って、なかなか 難しい。じっくりと腰を落ち着けて読みはじめなければならない。しかし読み 終えたあとの満足感は、小説や週刊誌の比ではない。殊にそれが体系だった理 論書であれば、なおさらである。 本書は、なかなか難解な文献である。しかし対象が家族であるということか ら、まったく理解できないなどということはない。ただシステム論的アプロ ーチを家族に応用していくプロセスには気を抜かず読みすすむ必要がある。具 体的な事例も豊富であるから、しっかり読みすすめば、難解であると思われ るところも、意外と面白かったりする。読み終えたあと、家族システム論的 分析への関心は倍増するはずである。また、自分の家族について今までとはま ったく異なった見方ができるようになるだろう。</p>	<p>[演習計画]</p> <p>< 前期 ></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 内側からの研究 2. システム論的アプローチ 3. 三つの下位システム 4. 接近次元と目標次元 5. 接近の方法 (空間) 6. 接近の方法 (時間) 7. 接近の方法 (エネルギー) <p>< 後期 ></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 接近の方法 (計画と戦略) 2. 家族の類型 (構造的配置) 3. 家族の類型 (目的・欠陥・理想) 4. 家族内の個人 (4単位の構成) 5. 家族内における個人 (戦略的相互作用) 6. 距離調節のモデル 7. 家族の発達 			
<p>[成績評価の方法] 授業中の発表と夏休みのレポートと期末のテストの総合的な評価で成績を 決定する。出席を、とくに重視する。欠席の回数によっては単位を出さない。</p>	<p>[参考文献] 野々山ほか (編) 『いま家族に何が起きているのか』 (ミネルヴァ書房) 野々山ほか (編) 『家族社会学入門』 (文化書房博文社) 野々山ほか (編) 『家族社会学の分析視角』 (ミネルヴァ書房) など。 その他、授業の進展にそくして、その都度、随時紹介していく。</p>			
<p>[教科書] D. カンター & W. レア 『家族の内側—家族システム理論入門—』 (垣内出版 1988年)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学科文献演習	08	通 期	4 単位	藤 森 勉
[演習概要・学習目標] 人文地理学に関する演習を行う。人文地理は研究対象によってさまざまな分野があるが、教科書として使用する本書は、関西大学を中心とする研究者が大学における演習用教科書として編集したもので、幅広い人文地理学の内容を理解させることができる。	[演習計画] 新訂人文地理に掲載されている20編の論文から各自関心の深いテーマを選人で解説させ、討論によって内容を深めさせる。			
[成績評価の方法] 授業中の発表、討論、小レポートをもって評価する。	[参考文献]			
[教科書] 末尾至行、橋本征治編 新訂人文地理 大明堂発行				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会調査	11 12 13	通 期 通 期 通 期	4 単位 4 単位 4 単位	過 放
[講義概要・学習目標] テレビや新聞のニュースを見るとき、社会調査のデータがしばしば発表されている。しかもパソコンの普及に伴い、その使用率はますます高まっているのが現状である。これらのデータはいったいどのように作り出されているのか。あるいはその信頼性はどのくらいあるのかと考えたことがあるだろうか。 本講義ではこれらの素朴な疑問を解答し、社会調査の意義と基本的な技法について解説していきたい。そしてグループ単位・個人単位で簡単な作業実習を体験することにより、社会調査の基本を身につけてもらう予定である。	[講義計画] <前期> 社会調査とは何か、社会調査と社会理論の関係など社会調査の意義と基本的な考え方を理解した上で、社会調査の基本ルール、問題意識と仮説、調査の企画と調査票の作成などについて勉強する。 <後期> データの収集、データの整理とチェック、データの解析、質的調査の方法などについて勉強・実習する。			
[成績評価の方法] 筆記試験、レポートなどの結果と出席状況を総合して評価する。詳細は最初の授業にて説明する。	[参考文献] 森岡清志編著『ガイドブック社会調査』日本評論社。			
[教科書] 大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋・永野武（編著） 『社会調査へのアプローチ 論理と方法』ミネルヴァ書房				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会調査	14 15	通 期 通 期	4単位 4単位	竹中英紀
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>新聞やテレビのニュースを見ると、「〇〇という意見を持つ人が何パーセント」というふうに、しばしば社会調査の結果が報じられている。あのデータは、いったいどのようにして作り出されているのだろうか。なぜ、ごくわずかな人たちだけを対象にして、全体の傾向を推測することができるのだろうか。</p> <p>社会学にとって社会調査は、データ収集の基本的な方法として位置づけられる。社会調査が正確で信頼に足るものであるためには、調査票の設計、標本抽出、調査の実施、データの集計、分析・解釈の各段階において、確立されている技法に厳密にしたがわなければならない。この授業では社会調査の意義と、これらの基本的な技法について解説する。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>原則としてテキストの内容に沿って授業を行なう。前期・後期それぞれのポイントは以下のとおりである。</p> <p>(前期)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会調査の意義と基本的な考え方 ・問題意識と仮説（独立変数、従属変数） ・調査の企画と質問文の作成 <p>(後期)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サンプリングの理論と方法 ・データの整理・入力とチェック ・単純集計とクロス集計、統計的検定 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>筆記試験、レポートなどの結果と出席状況を総合して評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大谷信介ほか『社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房 ・谷岡一郎『「社会調査」のウソ』文春新書 ・佐藤郁哉『フィールドワーク』新曜社 ・東京大学教養学部統計学教室編『人文・社会科学の統計学』 東京大学出版会 			
<p>[教科書]</p> <p>森岡清志編『ガイドブック社会調査』日本評論社</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会調査実習		通 期	4 単位	過 放
<p>[実習概要・学習目標]</p> <p>この科目は、「社会調査」の単位取得者を対象に、小人数・演習形式によって、社会調査についての深い知識と技法を修得することを目的として開講される。授業では、社会調査の企画・調査票の作成・調査の実施、コンピューターを使った調査データの解析・報告書の作成という一連の流れを実際に体験してもらう。正規の授業時間以外にも（休暇期間中にも）きわめて多くの学習・作業時間を必要とするので、安易な気持ちで受講してはならない。遅刻・無断欠席は履修放棄とみなすことがある。</p> <p>なお、この科目を履修しようとする者は、同時に「社会学特講（社会調査方法論・データ解析演習）」も履修すること。</p>	<p>[実習計画]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会調査の企画・立案 ・調査票の作成 ・調査の実施 ・調査データの解析 ・調査報告書の作成 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>授業に最後まで出席し、報告書の執筆を担当した者だけが単位認定の対象者となる。</p>	<p>[参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・桃山学院大学社会学部社会調査実習室『社会調査実習報告書』（1994年度以降、毎年発行） ・その他適宜指定する。 			
<p>[教科書]</p> <p>大谷信介ほか編著『社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房 森岡清志編著『ガイドブック社会調査』日本評論社。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学特講（データ解析演習）		秋学期	2 単位	過 放
[講義概要・学習目標] <p>この科目は、「社会調査実習」と並行して、「社会調査」の単位履修者を対象に、コンピューターを用いたデータ解析法の修得を目標に開講する。「社会調査実習」履修者は、かならず履修すること。</p> <p>授業は実質上「社会調査実習」と一続きで行なわれるが、とくにこの「社会学特講（データ解析演習）」の部分に関しては、主として社会調査データのコンピューターによる分析技法の習得に重点をおく。「社会調査実習」および「社会学特講（社会調査方法論）」とあわせて、かなりハードな授業になることを覚悟のうえで受講すること。遅刻・無断欠席は履修放棄とみなすことがある。</p>	[講義計画] <ul style="list-style-type: none"> ・統計パッケージ SPSS の利用方法 ・コンピューター上での変数の定義 ・データ入力と修正・加工 ・度数分布表とクロス集計表の作成 ・合成変数（尺度）の構成 ・クロス集計とエラボレーション ・多変量解析法 			
[成績評価の方法] <p>授業態度、作業課題の達成度により成績を評価する。</p>	[参考文献] <ul style="list-style-type: none"> ・桃山学院大学計算機センター『ユーザーズ・ガイド』 ・その他適宜指定する。 			
[教科書] <p>とくに使用しない</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学特講（社会調査方法論）		春学期	2 単位	過 放
[講義概要・学習目標] <p>この科目は、「社会調査実習」と並行して、「社会調査」の単位履修者を対象に開講するもので、社会調査のより高度な技法について理解を得ることを目標とする。「社会調査実習」履修者は、かならず同時に履修登録すること。</p> <p>授業は実質上「社会調査実習」と一続きで行なわれるが、とくにこの「社会学特講（社会調査方法論）」の部分に関しては、主として社会調査の理論的側面に重点をおく。かなりハードな授業になることを覚悟のうえで受講すること。遅刻・無断欠席は履修放棄とみなすことがある。</p>	[講義計画] <ul style="list-style-type: none"> ・概念と仮説 ・標本抽出法 ・統計的検定 ・クロス集計とエラボレーション ・コーディング ・尺度構成法 			
[成績評価の方法] <p>授業態度、作業課題の達成度により成績を評価する。</p>	[参考文献] <ul style="list-style-type: none"> ・原純輔ほか『社会調査演習』東京大学出版会 ・その他適宜指定する。 			
[教科書] <p>森岡清志編著『ガイドブック社会調査』日本評論社。 大谷信介ほか編著『社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房</p>				

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者								
政治学原論		通期	4単位	捧 堅 二								
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>政治学の原理及び現代の政治理論について その理論的な最前線を見据えつつ講義したい。</p>	<p>[講義計画]</p> <table> <tr> <td>1 原理と自然</td> <td>2 政治学の起源</td> </tr> <tr> <td>3 人間と政治</td> <td>4 イデオロギー</td> </tr> <tr> <td>5 真理と政治</td> <td>6 三つの自由主義</td> </tr> <tr> <td>7 社会主義</td> <td>8 国家</td> </tr> </table>				1 原理と自然	2 政治学の起源	3 人間と政治	4 イデオロギー	5 真理と政治	6 三つの自由主義	7 社会主義	8 国家
1 原理と自然	2 政治学の起源											
3 人間と政治	4 イデオロギー											
5 真理と政治	6 三つの自由主義											
7 社会主義	8 国家											
<p>[成績評価の方法]</p> <p>①出席状況(3分の2以上の出席が必要) ②レポート・小テストを実施。 ③定期試験を実施する。 ④成績評価は厳格に行う。</p> <p>注意:講義中の私語、飲食は許さない。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>講義の際に随時あげる。</p>											
<p>[教科書] 使用しない</p>												

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
社会地理学		秋学期集中	4単位	野尻 亘
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>20世紀の資本主義文明がもたらした都市社会、そこにはさまざまな人々が働き、居住し、生活する社会空間の多様なモザイク模様をみることができる。都市において、高級住宅地やスラム街・オフィス街は、どのようなプロセスを経て成立するのか。欧米都市において、人々はなぜ民族や社会階層によって住み分けてきたのか。このような差別や不平等な空間構造はいかにして作られるのか。平等ですべての人々が共生する都市社会とはどのようなものか。 20世紀に入ってから、社会学者や地理学者はこのような問題にさまざまな関心をよせてきた。この授業では、これらの多くの諸学説を展望し、整理するとともに、都市、さらにはその対比としての伝統的な村落社会の社会構造をどのように解明するかを考えることとしたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 序論——地域・景観・空間—— 形態論と機能論的考察 2. 社会理論と地理学 3. 20世紀初めのシカゴ——大都市問題の発生と分析手法の成立 4. 大都市の古典的な社会空間構造モデル 5. シカゴ学派社会学の意義と限界 6. 集会的共同消費としての都市 7. 社会的稀少資源の配分としてみた都市 8. 建造環境としての都市 9. ギデンスの構造化理論と時間地理学 10. マルクス構造主義批判としての都市の人文主義的解読 11. 新しい産業社会——ポストフオーダイズムとジャスト イン タイム 12. 伝統的村落社会の基本空間 13. エスニシティと国家 14. まとめ 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>試験にするかレポートにするかは、授業の進度や履修状況をみて決定する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>吉原直樹 『都市空間の社会理論』 東京大学出版会 梶田孝道 『エスニシティと社会変動』 有信堂</p>			
<p>[教科書] 使用しない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
統計学		通 期	4 単位	安 藤 洋 美
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>論理的なものは出来るだけさけて具体的なものから統計学の本筋に入っていく。 継続的な受講が統計学の実践に役立つ。 講義内容は講義計画の通りである。 各自電卓は必携である。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>I. 確率 (1) 確率変数・平均・分散 (2) 連続型確率変数 2項分布・Poisson分布・正規分布</p> <p>II. 統計 (1) 資料の整理 (2) 母集団と標本 (3) 推定 (4) 検定</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>主資料は定期試験の成績と平常授業の出席状況である。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>東京大学教養学部統計学教室 (編) 『統計学入門』 (東大出版会) ¥2,884 I S B N</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会調査	21	通 期	4 単位	清 水 由 文
[講義概要・学習目標] われわれはテレビ、新聞などのマスメディアでの調査結果やグラフを見ることにより現代社会をより明確に理解することができることを知っている。そして社会調査ではそのような資料の調査方法およびその解読方法を学習することを目的としている。さらにそのような調査結果をとおしてより精密な社会理論を構築することができる。したがって、本講義では社会調査の理論と技法を習得するというステップとそれを実際に調査票を作成して調査するという2つのステップを採用する。	[講義計画] [春学期] 1. 社会調査とはなにか 2. 社会調査の展開 3. 社会調査の方法 4. 調査票の作成 5. 調査票の集計・検定・分析 6. ライフ・ヒストリー 一の調査法 7. 社会調査テスト 8. 夏休みの課題 (ライフ・ヒストリーのリポート作成) [秋学期] 1. 実習のグループ分け 2. 意識調査の問題発見と仮説の設定 3. 調査票の作成および印刷 4. 調査の実施 5. 調査票の集計・検定 6. 調査票の分析 7. 最終調査報告書の作成			
[成績評価の方法] 試験 (20%)、レポート (20%)、出席 (30%)、最終報告書 (30%) のよる総合評価	[参考文献] その都度指示する			
[教科書] 井垣章二『社会調査入門』ミネルヴァ書房				

福
社
~01

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉援助技術総論		秋学期 集 中	4 単位	小 山 隆
[講義概要・学習目標] 1 社会福祉サービスと援助活動の関係について理解させる。 2 福祉専門職と専門援助技術の関係について理解させる。 3 社会福祉援助活動の目的・価値・原則及び諸過程の体系とそこにおける共通課題について、老人や障害者を中心とする具体的事例に基づき、介護との関係に十分留意させつつ理解させる。 4 社会福祉援助活動における専門援助技術の体系について理解させる。 5 社会福祉援助技術に由来する倫理について理解させる。	[講義計画] 1 社会福祉サービスと援助活動の関係 2 福祉専門職と専門援助技術の関係 3 専門援助技術の歴史的展開 4 社会福祉援助活動の目的・価値・原則及び諸過程と共通課題 1) 社会福祉援助活動の目的と価値 2) 社会福祉援助活動の原則 3) 社会福祉援助活動の諸過程 ①受理面接 (インテーク) と社会診断 ②社会治療 ③終結 4) 社会福祉援助活動の共通課題 ①契約・介入・課題の意義と方法 ②面接の意義と方法 ③記録の意義と方法 ④評価の意義と方法 ⑤スーパービジョンの意義と方法 ⑥ケースマネジメントの意義と方法 5 専門援助技術の体系及び内容 1) 直接援助技術 ①個別援助技術 (ケースワーク) ②集団援助技術 (グループワーク) 2) 間接援助技術 ①地域援助技術 (コミュニティワーク) ②社会福祉調査法 ③社会福祉運営管理 (ソーシャル・アドミニストレーション) 3) その他の関連専門援助技術 6 社会福祉援助活動の場と専門援助技術 7 専門援助技術と倫理 8 専門援助技術の統合化とチームによる対応 9 専門援助技術をめぐる我が国及び諸外国の動向			
[成績評価の方法] 出席 + 小レポート + 期末考査				
[教科書] なし				
[参考文献] 必要に応じて授業中に指示する				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉援助技術各論 I A		春学期 集 中	4 単位	小西 加保留
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
1 社会福祉援助技術における直接援助技術の内容と性格・位置づけについて理解させる。 2 個別援助技術（ケースワーク）の理論や技法・技術が老人や障害者等にどのように適用され問題解決へと導くのか、介護と関係づけて事例を通して理解させる。	1 社会福祉援助技術における直接援助技術の位置づけとその内容・性格について 2 個別援助技術（ケースワーク）の理論と技法・技術 ①直接援助技術と個別援助技術 ②個別援助技術の意義と特徴 ③個別援助技術の歴史 ④個別援助技術の構造と構成要素 ⑤個別援助技術の機能 ⑥個別援助技術の援助関係と原則 ⑦個別援助技術の展開過程と技術 ・受理面接（インテーク）と社会診断 ・社会治療 ・終結 ⑧個別援助技術の新動向（統合論など） ⑨面接の意義と技法・技術 ⑩記録の意義と方法 ⑪効果測定の意義と技法・技術 ⑫個別援助技術の適用分野とそこにみられる特殊性 ⑬スーパービジョンの意義と方法			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
レポート提出、出席状況、学年末試験によって評価する。	バイステック（著）『ケースワークの原則』（誠信書房） 福祉士養成講座編集委員会『社会福祉援助技術論』（中央法規出版）			
[教科書]				
大塚達雄他（編著） 『ソーシャル・ケースワーク論 社会福祉実践の基礎』（ミネルヴァ書房）				

福
社
~01

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉援助技術各論 I B		春学期 集 中	4 単位	石田 易司
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
1 社会福祉援助技術における直接援助技術の内容と性格・位置づけについて理解させる。 2 集団援助技術（グループワーク）の理論や技法・技術が老人や障害者等の問題解決にどのように適用され、問題解決へと導くのか、介護との関係で事例を通して理解させる。	1 社会福祉援助技術における直接援助技術の位置づけと内容と性格 2 集団援助技術（グループワーク）の理論と技法・技術 ①直接援助技術と集団援助技術 ②集団援助技術の意義と特徴 ③集団援助技術の歴史 ④集団援助技術の構造と構成要素 ⑤集団援助技術の機能 ⑥集団援助技術の援助関係と原則 ⑦集団援助技術の展開過程と技術 ・準備期 ・開始期 ・作業期 ・終結期 ⑧集団援助技術の各種モデル ⑨観察の意義とその技法・技術 ⑩記録の意義とその方法 ⑪効果測定の意義とその技法・技術 ⑫集団援助技術の適用分野とそこにみられる特殊性 ⑬スーパービジョンの意義とその方法			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
日常のレポートと前期のレポート	『新しいグループワーク』（YMC同盟） 『はじめて学グループワーク』（ミネルヴァ書房）			
[教科書]				
『さかさまの星座』（オモドック）03-3371-2204に直接電話してください。 Camping for all（エルビス社）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉援助技術各論Ⅱ		通 期	4 単位	玉置 好徳
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>1 間接援助技術の内容と性格について理解させる。 2 地域援助技術（コミュニティワーク）の理論と技術について、老人や障害者を中心とする具体的事例に基づき、介護との関係に十分留意させつつ理解させる。 3 社会福祉調査法の理論と技術について、老人や障害者を対象とする具体的調査に基づき理解させる。 4 社会福祉の運営と計画の技術について理解させる。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>1 間接援助技術の内容と性格 2 地域援助技術（コミュニティワーク）の理論と技術 1) 地域援助技術の概念と基本的性格 2) 地域社会の組織化 ①地域組織化 ②福祉組織化 3) 地域援助技術 ①地域社会の診断方法 ②集団及び組織の診断方法 ③住民組織の方法 ④社会資源の開発と活用方法 ⑤集団及び組織・機関の調整方法 ⑥情報の収集・伝達及び活用方法 ⑦記録と評価の方法とその活用方法 ⑧地域福祉計画の策定方法 3 社会福祉調査法の理論と技術 1) 社会福祉調査の基本的性格と類型 ①基本的性格 ②諸類型 2) 統計調査法における調査技術 ①特質と意義 ②標本抽出の理論と技法 ③調査方法・手順・諸過程及び技術 3) 事例調査における調査技術 ①特質と意義 ②調査方法・手順・諸過程及び技術</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>期末課題の評価及び平常成績</p>				
<p>[教科書]</p> <p>高森敬久・高田真治・加納恵子・定藤丈弘（著） 『コミュニティ・ワーク』（海声社 1989年） ¥1,751-（本体¥1,700- 税¥51）</p>				
<p>[参考文献]</p> <p>井岡勉・成清美治（編）『地域福祉概論』（学文社 2001年） ¥2,100-（税別） （※テキストを補完するために使用しますので、必ず購入すること。）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
地域福祉論		春学期 集 中	4 単位	上野谷 加代子
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>1 地域福祉の理念と内容について理解させる。 2 地域福祉計画の意義と内容、地域福祉の推進方法について理解させる。 3 地域福祉の現状について理解させる。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>1 現代社会におけるコミュニティと地域福祉 2 現代社会と地域福祉 1) 地域福祉理念の発達 2) 概念と範囲 3) 役割と意義 3 地域福祉の構成 4 地域福祉の推進方法 1) 推進の基本的な考え方 2) 地域福祉計画の意義と内容 3) 市町村と社会福祉協議会の役割と住民参加の意義 4) サービス提供組織とその運営方法 5) 人材の構成及びその動員方法 6) 財源の構成とその調達の方法 7) 地域福祉推進の具体的な組織、団体、専門職及びその連帯のあり方 5 地域福祉の現状</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>授業時の小テスト 学年末テスト、レポート等により総合的評価</p>				
<p>[教科書]</p> <p>『地域福祉論』（新・社会福祉学習双書 第10巻 全国社会福祉協議会）</p>				
<p>[参考文献]</p> <p>『地域福祉論』（福祉士養成講座編集委員会 編集 中央法規） 他は授業時に提示する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単 位	担 当 者
ケアマネージメント		秋学期	2単位	浜 田 和 則
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>講義概要 要介護等高齢者支援の機関で活用されているケアマネジメントの手法や過程を、講義・演習・フィールドワーク（課題・宿題になります。）を交えて体験的に学習する。講義等の中では関連領域である、介護保険制度の概要・契約、コストマネジメントやマネジメントケア、苦情解決の実際、介護事故対応・防止を主体としたリスクマネジメントについても少しだけ触れたいと考えている。 なお、要介護者等と接する経験がないと講義内容の理解が困難なことが予想されるため、要介護者等施設などでの実習を終了、または開講までに終了予定で、開講期間を通じて欠席せずに来られる人の履修を希望します。なお、講義は出席と講義時に実施する演習の参加を重視する。</p> <p>学習目標 理論的な理解と同時に演習・フィールドワークを通じて体験し、将来実務に役立つ援助技術方法概要の習得を目指す。また、この分野に関心を持ってもらうことにより、実践現場へのマンパワーの輩出をあわせて目標とする。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>第一回 講義計画とケアマネジメントの概要①～ケアマネジメントの成り立ち～ 第二回 ケアマネジメントの概要②～介護保険制度におけるケアマネジメント～ 第三回 ケアマネジメント過程①～入口、ケース発見、申請・要介護認定調査～（認定調査体験演習；ビデオ使用、二人ペアで調査面接を体験） 第五回 ケアマネジメント過程②～認定審査会、インテーク、サービス利用契約～（インテーク・サービス利用契約演習；二人ペアで重要事項、契約内容説明） 第六回 ケアマネジメント過程③～アセスメント（1）生活ニーズとアセスメント～ 第七回 ケアマネジメント過程④～アセスメント（2）ニーズアセスメントとアセスメント表～（アセスメント表作成演習；資料、ビデオからアセスメント表を記入） 第八回 ケアマネジメント過程⑤～ケアプラン（1）ケアプランの種類、構造と社会資源～ 第九回 ケアマネジメント過程⑥～ケアプラン（2）居宅サービス計画原案作成～ 第十回 ケアマネジメント過程⑦～サービス担当者会議～サービス担当者会議演習 第十一回 ケアマネジメント過程⑧～モニタリングと苦情処理・苦情解決の方法～ 第十二回 日本における施設ケアマネジメントへの潮流 第十三回 ケアマネジメントとリスクマネジメント 第十四回 障害者ケアマネジメントと社会福祉基礎構造改革、海外のケアマネジメント</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>講義内容を記入した出欠票と演習時の課題物提出、レポートまたは試験により評価。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>白澤政和 他編「ケアマネジメント講座①～③」中央法規出版、2000年 浜田和則 他編「介護支援専門員のしごとを支えるQ&A」中央法規出版、2000年 （財）長寿社会開発センター編「介護支援専門員専門員 基本テキスト」2001年 浜田和則 他編「ヘルパーステーションの運営管理」中央法規出版、2000年、他</p>			
<p>[教科書]</p> <p>（社）日本社会福祉士会編「平成12年度 介護支援専門員実務研修課題分析 手法資料『ケアマネジメント実践記録様式』（日本社会福祉士会方式）」2000年、（社）日本社会福祉士会 *但し、改訂版が出版された場合はそちらを使用します。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ボランティア論		秋学期	2単位	大 野 順 子
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>現代社会（日本国内・国外）の中のボランティア活動のニーズに焦点をあてながら、ボランティア活動が創り上げていく社会にスポットをあて、その理解を深め、自分達も社会を構成する一員であることを認識させる。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>全14回（予定）</p> <p>1. ボランティア入門 2. NPOとNGO 3. 福祉分野とボランティア 4. 教育分野とボランティア 5. 国際協力の中のボランティア 6. ボランティアプログラム作成作業 7. 現代日本社会のボランティアのニーズI 8. 現代日本社会のボランティアのニーズII 9. ボランティア活動の国際比較 10. ボランティアプログラム作成作業 11. ボランティアが市民社会を変える 12. 個人研究のフェーシアル 13. ボランティアプログラム製作発表会 14. 予備日</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>毎回の授業後に提出するレポート・出席数 グループ研究および個別研究 期末考査は行わない 以上により総合して行う。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>「ボランティアと市民社会 - 公共性は市民が紡ぎ出す」 立木 茂雄 著 晃洋書房 2001年 * その他、授業毎に紹介</p>			
<p>[教科書]</p> <p>特に使用しない 随時、授業内容に関連した文献を紹介する</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉援助技術演習 1 ※ 第4年次の「社会福祉援助技術演習2」の双方を履修して 「社会福祉援助技術演習（4単位）」認定。	01	通 期	4 単位	(春学期) 石田 易司 (秋学期) 小西 加保留
[講義概要・学習目標] 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。	[講義計画] 具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術とその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。 さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。			
[成績評価の方法] <春学期> 出席とレポート <秋学期> 出席を重視し、課題への参加状況、レポート等によって、総合的に評価する。	[参考文献] <春学期> 『新しいグループワーク』（YMC A同盟） 『はじめ学ぶグループワーク』（ミネルヴァ書房） <秋学期> 適宜紹介する。			
[教科書] <春学期> アイスブレイク（エルビス社） <秋学期> 授業時に配布する。				

福
祉
~01

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉援助技術演習 1 ※ 第4年次の「社会福祉援助技術演習2」の双方を履修して 「社会福祉援助技術演習（4単位）」認定。	02	通 期	4 単位	大西 雅裕
[講義概要・学習目標] 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。	[講義計画] 具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術とその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。 さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。			
[成績評価の方法] 出席及びレポートによって評価する。	[参考文献] 『事例研究から学ぶリーシャルワーク実践』（八千代出版）			
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉援助技術演習 1 ※ 第4年次の「社会福祉援助技術演習2」の双方を履修して「社会福祉援助技術演習（4単位）」認定。	03	通 期	4単位	竹中 麻由美
[講義概要・学習目標] 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。	[講義計画] 具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。 さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。			
[成績評価の方法] ・出席点 ・小テスト、課題レポート ・グループ発表の内容	[参考文献] 随時紹介する			
[教科書] 『F.パバスティック、ケースワークの原則』（誠信書房）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉援助技術演習 1 ※ 第4年次の「社会福祉援助技術演習2」の双方を履修して「社会福祉援助技術演習（4単位）」認定。	04	通 期	4単位	藤田 譲
[講義概要・学習目標] 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。	[講義計画] 具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。 さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。			
[成績評価の方法] 出席状況 = 50% 課題レポート（適時）・小テスト（6回） = 50% 上記の比重にて評価を行う	[参考文献] 随時紹介する			
[教科書] 平山尚 他『社会福祉実践の新潮流』（ミネルヴァ書房） 平山尚・武田文『人間行動と社会環境』（ミネルヴァ書房） その他、内容に応じた資料も配付予定である。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉援助技術演習 1 ※ 第4年次の「社会福祉援助技術演習2」の双方を履修して「社会福祉援助技術演習（4単位）」認定。	05	通 期	4単位	安原 佳子
[講義概要・学習目標] 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。	[講義計画] 具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術とその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。 さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。			
[成績評価の方法] 授業、課題に対する参加状況（出席率、とりくみの姿勢）、レポート等により、総合的に評価する。	[参考文献] 授業時に適宜紹介する。			
[教科書] 授業時に提示する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉援助技術演習 1 ※ 第4年次の「社会福祉援助技術演習2」の双方を履修して「社会福祉援助技術演習（4単位）」認定。	06	通 期	4単位	山本 克彦
[講義概要・学習目標] 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。	[講義計画] 具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術とその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。 さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。			
[成績評価の方法] 演習形態の授業であるため、出席を最重視する。 他にはレポート（年2回）、演習における態度・姿勢により総合評価をする。	[参考文献] 津村俊充、山口真人（編）『人間関係トレーニング-私を育てる教育への人間学的アプローチ』（ナカニシヤ出版） 津村俊充、星野欣生『Creative Human Relations Vol I～VIII』（プレスタイム） 平山尚、平山佳須美、黒木保博、宮岡京子（共著）『社会福祉実践の新潮流-エコロジカル・システム・アプローチ』（ミネルヴァ書房） 諏訪茂樹著 『援助者のためのコミュニケーションと人間関係』（建帛社） 他 適宜紹介			
[教科書] 演習ごとに資料、ワークシート等を配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉援助技術演習 1 ※ 第4年次の「社会福祉援助技術演習2」の双方を履修して 「社会福祉援助技術演習（4単位）」認定。	07	通 期	4単位	竹内 公昭
[講義概要・学習目標] 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。	[講義計画] 具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。 さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。			
[成績評価の方法] ・出席 ・授業中の取り組み方	[参考文献] 森田ゆり『多様性トレーニングガイド』（解放出版社）			
[教科書] 久保絃章（編）『社会福祉援助技術演習』（相川書房）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉援助技術演習 1 ※ 第4年次の「社会福祉援助技術演習2」の双方を履修して 「社会福祉援助技術演習（4単位）」認定。	08	通 期	4単位	松平 千佳
[講義概要・学習目標] 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。	[講義計画] 具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。 さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。			
[成績評価の方法] 出席およびレポート	[参考文献]			
[教科書] 必要な資料を用意して配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉援助技術演習 1 ※ 第4年次の「社会福祉援助技術演習2」の双方を履修して「社会福祉援助技術演習（4単位）」認定。	09	通 期	4単位	山野 則子
[講義概要・学習目標] 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。 2 学生個人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。	[講義計画] 具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術とその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。 さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。			
[成績評価の方法] 出席、授業への参加態度、レポート、試験によって総合的に評価を行う。	[参考文献] E.P. バイスティック著、尾崎新ほか訳『ケースワークの原則』（誠信書房） 社会福祉教育方法・教材開発研究会編集『新社会福祉援助技術演習』（中央法規） 山縣文治監修『子どもを支える相談ネットワーク』（ミネルヴァ書房） 適宜紹介する。			
[教科書] 講義時に指示する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉援助技術現場実習Ⅱ	01 02 03 04 05 06 07 08 09 10	通 期 通 期 通 期 通 期 通 期 通 期 通 期 通 期 通 期 通 期	2単位 2単位 2単位 2単位 2単位 2単位 2単位 2単位 2単位 2単位	坂本 光哉 淡野 勝也 坪山 孝 西浦 太一 松端 克文 安原 佳子 石塚 正志 川東 光子 阪野 学 田中 信行
[講義概要・学習目標] 1 社会福祉の現場体験を通して社会福祉専門職（社会福祉士）として仕事をするうえで必要な「心構え」、「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」の内容の理解を深める。 2 「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」を実際に活用し、介護を必要とする老人や障害者等に対する“相談援助業務”に必要な資質・能力技術を習得する。 3 職業倫理を身につけ、福祉専門職としての自覚にもとづいた態度・行動ができるようにする。 4 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。 5 関連分野の専門職との連携のあり方や共同して業務を進行していくうえでの具体的内容・方法を理解する。	[講義計画] 1 配属実習オリエンテーション 2 専門援助技術実技指導 3 面接実技指導 4 記録実技指導 5 評価・効果測定実技指導 6 配属実習 7 実習記録に基づく実習の総括レポートの作成 8 レポートに基づく個別指導 9 全体総括会			
[成績評価の方法] 全出席（学内・学外）が条件であり、実習ノート、実習レポート、実習研究報告・総括会、実習先評価を総合的に判断し、評価する。	[参考文献]			
[教科書] 授業時指定する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉援助技術現場実習Ⅲ	01	通 期	2 単位	大野 定利
	02	通 期	2 単位	坂本 光哉
	03	通 期	2 単位	佐竹 紀美子
	04	通 期	2 単位	田中 信行
	05	通 期	2 単位	中原 康博
	06	通 期	2 単位	藤田 満
	07	通 期	2 単位	松端 克文
	08	通 期	2 単位	安原 佳子
	09	通 期	2 単位	山本 克彦
	10	通 期	2 単位	川東 光子
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<ol style="list-style-type: none"> 1 社会福祉の現場体験を通して社会福祉専門職（社会福祉士）として仕事をするうえで必要な「心構え」、「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」の内容の理解を深める。 2 「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」を実際に活用し、介護を必要とする老人や障害者等に対する“相談援助業務”に必要な資質・能力技術を習得する。 3 職業倫理を身につけ、福祉専門職としての自覚にもとづいた態度・行動ができるようになる。 4 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。 5 関連分野の専門職との連携のあり方や共同して業務を進行していくうえでの具体的内容・方法を理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 配属実習オリエンテーション 2 専門援助技術実技指導 3 面接実技指導 4 記録実技指導 5 評価・効果測定実技指導 6 配属実習 7 実習記録に基づく実習の総括レポートの作成 8 レポートに基づく個別指導 9 全体総括会 			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
全出席（学内・学外）が条件であり、実習ノート、実習レポート、実習研究報告・総括会、実習先評価を総合的に判断し、評価する。				
[教科書]				
授業時指定する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉援助技術現場実習Ⅳ	01	通 期	2 単位	小 西 加保留
[実習概要・学習目標]	[実習計画]			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健医療の領域におけるソーシャルワークの現状を把握する。 2. 各医療機関の機能や業務の特徴を理解する。 3. 必要な社会資源について、その枠組みを理解する。 4. ソーシャルワークの価値や倫理について具体的実践的に考察する。 5. ソーシャルワークの意義や役割について実践的に理解する。 6. 対象領域別に必要な知識を整理し、把握する。 7. チーム医療のあり方について学習する。 	<p>[実習前課題]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習目標の明確化 2. 言葉遣いなどのマナーを習得する 3. 医療機関の機能や特徴を理解する 4. 基本的な医療保険・所得保障制度を理解する 5. 面接技法やソーシャルワーク技術の振り返り <p>[実習後課題]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習体験の報告と振り返り 2. 実習記録の書き方を考察する 3. 実習記録を基に、必要な情報やアセスメント等ソーシャルワークの視点を確認する 4. 学習目標に沿って、各自の学習を深め整理する 5. 実習報告会に向けての準備を行なう 			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
実習機関での評価、授業への参加度、理解度等を総合的に評価する。	荒川義子（編）『医療ソーシャルワーカーの仕事』（川島書店）2000			
[教科書]				
適宜資料を配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉援助技術現場実習Ⅳ	02	通 期	2 単位	藤 田 謙
【実習概要・学習目標】 このクラスは、保健医療機関（精神保健分野を除く）で実習を行う学生を対象とするので、これまで履修した科目・実習体験を踏まえて、以下の目標に沿って運営していく。 1 保健医療機関での実習に求められるマナーを身に付ける 2 各自の実習施設の機能や特徴を理解する 3 保健医療機関の現状について、実習体験を基に理解を深める 4 保健医療におけるソーシャルワークの意義とソーシャルワーカーの役割を考える クラスでは、この目標に応じた課題の発表や実習状況の個別報告を通じて、医療分野の固有性を理解し、実習体験を共有できるようにしたい。	【実習計画】 【前期】 実習前もしくは実習初期の段階として、以下の課題を行う 1 電話の応答・来客への応対などマナーの習得 2 保健医療機関の機能や特徴の把握 3 保健医療の現状と問題についての理解 4 実習状況の報告 【後期】 1 実習状況の報告 2 実習施設におけるソーシャルワーカーの役割の理解 3 実習成果の確認とまとめ			
【成績評価の方法】 クラスへの出席・課題への取り組み・実習先の評価を総合して評価する クラスおよび実習については、原則として毎回出席が必要である	【参考文献】 荒川義子編著『スーパージョンの実際』（川島書店） 杉本照子編著『医療におけるソーシャルワークの展開』（相川書店）			
【教科書】 荒川義子編著『医療ソーシャルワーカーの仕事』（川島書店）				

福
社
～01

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉発達史 （旧社会福祉発達史Ⅰ、Ⅱ）		通 期	4 単位	木 村 和 世
【講義概要・学習目標】 本講義は現在、おこなわれている福祉政策が、どのような歴史的背景を持ち、その根底には何が潜んでいるかということを考えていこうとするものである。明治・大正・昭和期の農村や都市の人々の生活を具体的にみていくなかで、その問題を考えていきたい。また、日本に深く影響を与えた諸外国の福祉政策も視野にいれながら講義をすすめていく。	【講義計画】 1. 明治期の恤救規則から工場法の成立までを南河内の一農村を舞台にみる 2. 福祉政策に一定の役割を果たした大正期の都市のリベラリズムの光と影 3. イギリスの救貧法から新救貧法までの流れと、日本に影響を与えた福祉思想 4. 戦時下を実施された国策と福祉政策 5. 戦後の混乱と福祉政策と人々の生活 6. 現代の抱える問題と福祉政策			
【成績評価の方法】 テストを実施する。出席も評価の対象となる。	【参考文献】 講義時間中に指示する			
【教科書】				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
医療保健福祉論 (旧医療福祉論)		春学期集中	4 単位	小 西 加保留
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療保健福祉の理念と意義を理解させる。 2. 医療保健福祉施策の概要について理解させる。 3. 医療保健福祉の対象者の人権について理解させる。 4. 医療保健福祉の対象と機能を理解させる。 5. 医療保健福祉の相談援助活動の内容を理解させる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療保健福祉の理念と意義 <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療の変遷と社会福祉 2) 医療モデルと福祉モデル 3) 医療の流れとソーシャルワーク 2. 保健医療分野におけるソーシャルワークの歴史 3. 医療施策の変遷 4. 医療保障制度 5. 生命倫理・人権・福祉 6. 医療保健福祉の相談援助活動 <ol style="list-style-type: none"> 1) 業務指針 <ol style="list-style-type: none"> (1) 経済的問題への援助 (2) 療養中の心理社会的問題への援助 (3) 受診・受療援助 (4) 退院援助 (5) 地域活動 7. チーム医療 2) 相談援助活動の実態 <ol style="list-style-type: none"> (1) ライフサイクルと相談援助 (2) 社会資源の開発 (3) 障害受容と退院援助 (4) グループワークと医療福祉 (5) その他対象別援助 			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
出席状況、レポート、学期末試験によって総合的に評価する。	保健医療の専門ソーシャルワーク研究会『保健医療の専門ソーシャルワーク』（中央法規出版）1996 杉本照子監修『医療におけるソーシャルワークの展開 ― その原則と実践 ―』（相川書房）2001 大本和子他著『医療ソーシャルワーク実践50例』（川島書店）1999 日本医療社会事業協会編『保健医療ソーシャルワーク原論』（相川書房）2001			
[教科書]				
講義時に資料等配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉施設運営論		秋 学 期	2 単位	坪 山 孝
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>今日の社会福祉施策はノーマリゼーション及び在宅生活の継続性などを目標にしている。これが社会福祉施設に地域化や多機能化の課題を与え、その経営に大きく影響している。</p> <p>しかし現在でも施設の重要な役割は利用者に対するサービスにある。施設を利用する個人及び家族の自立を支える社会的装置という視点から施設の有用性を考え、経営主体の形態やサービス・人事・財務などの諸管理について講義し、総合的に施設の運営管理を学習する契機としたい。</p> <p>また、高齢者の施設は介護保険制度に移行し、利用者本位のサービス提供を目標に自己選択・苦情対応・第三者評価などの新しい仕組みを導入する責任があるので、これらについても考える。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会福祉施設の沿革 2 社会福祉施設の体系と制度 3 社会福祉施設の経営と社会福祉法人制度 4 利用者のニーズとサービス管理 5 社会福祉施設と業務管理 6 社会福祉施設と地域社会 7 社会福祉施設と従事者 8 社会福祉施設の建物、設備 9 社会福祉施設と介護保険制度 			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
学期末試験による	資料については、適宜配布する 随時、授業中に紹介する			
[教科書]				
使用しない				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	氏 名
社会福祉法制論 (旧社会福祉法制)		春学期集中	4 単位	瀧澤 仁 唱
[講義概要・学習目標] 1 社会福祉(狭義)の法制度全体の理解 2 社会福祉の権利と日本国憲法の関連の理解 3 社会福祉に関連する諸法場の理解		[講義計画] 1 ガイダンス 2 社会福祉の意義 3 社会福祉法の発生 4 憲法と社会福祉法 5 社会保障法の中の社会福祉法の位置 6 社会福祉法(1) 7 社会福祉法(2) 8 社会福祉法(3) 9 社会福祉法(4) 10 社会福祉法(5) 11 社会福祉法(6) 12 障害者福祉法(1) 13 障害者福祉法(2) 14 障害者福祉法(3) 15 障害者福祉法(4)	16 障害者福祉法(5) 17 障害者福祉法(6) 18 障害者福祉法(7) 19 老人福祉法(1) 20 老人福祉法(2) 21 老人福祉法(3) 22 老人福祉法(4) 23 児童および母子福祉関係法(1) 24 児童および母子福祉関係法(2) 25 児童および母子福祉関係法(3) 26 児童および母子福祉関係法(4)	
[成績評価の方法] 論述式筆記試験		[参考文献] 『社会福祉六法 2002(平成14)年版』(新日本法規)		
[教科書] 法改正が多く、適当な教科書が間にあわないので、別途指示します。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会保障論		通 期	4 単位	里見 賢治
[講義概要・学習目標] 1 現代社会における社会保障の理念と意義について理解させる。 2 社会保障制度の体系について理解させる。 3 社会保障の各制度の概要について理解させる。 4 日本の年金保険について熟知させる。 5 日本の医療保険について熟知させる。 6 日本の民間保険の概要と公的施策との関係について理解させる。 7 社会保障の実施体制及び専門職について理解させる。		[講義計画] 1 現代社会と社会保障 1) 社会保障理念の発達 2) 概念と範囲 3) 役割と意義 2 社会保障制度の体系 3 社会保障を構成する各制度の目的、対象、給付内容及び財源の概要 1) 年金保険 2) 医療保険 3) 介護保険 4) 労災保険 5) 失業保険(雇用保険) 6) 家族手当(児童手当) 7) 公的扶助 8) その他関連制度	4 日本の年金保険制度とその具体的内容 1) 国民年金 2) 厚生年金 3) 各種共済組合の年金 5 日本の医療保険制度とその具体的内容 1) 国民健康保険 2) 健康保険 3) 各種共済組合の医療保険 6 公的施策と民間保険 1) 公的施策との関係 2) 現状 7 社会保障の実施体制及び専門職	
[成績評価の方法] 定期試験等で総合的に評価する。 前後期試験のいずれかを受験しなかった者は、単位認定できない。		[参考文献] 里見賢治(著)『日本の社会保障をどう読むか』(労働旬報社、1990年) 里見賢治、二本立、伊東敬文(共著)『公的介護保険に異議あり』(ミネル ヴァ書房、初版1996年、増補版1997年) 里見賢治ほか(共著)『福祉財政論』(ミネルヴァ書房、1989年) 一岡光弥(著)『自ら築く福祉』(大蔵省印刷局、1993年) その他、適宜紹介する。		
[教科書] レジュメを配布する。 教科書を使用するかどうかは検討中。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉行財政論		秋学期	2単位	八 田 和 子
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>1. 社会福祉行財政システムの基礎構造を理解する。 社会福祉の組織、専門職、サービス提供方式、財政等にかかわる制度体系とこれを支える基本原理、制度の歴史的背景、現状等を解説する。</p> <p>2. 社会福祉行財政システムをめぐる理論的諸問題を理解する。 社会福祉行財政における理論問題を、先行研究を踏まえて検討してゆく。また、福祉行財政システム分析の手法とその課題についても触れたい。</p> <p>3. システム改革のあり方を検討する。 1、2を踏まえながら、介護保険や社会福祉基礎構造改革をめぐる政策論争取り上げ、社会福祉システム改革のあり方を検討する。</p>	<p>1. 導入</p> <p>2. 市場の失敗と福祉政策</p> <p>3. 福祉の組織と専門職 ・ 官僚制と専門職主義 ・ 社会福祉の組織 ・ 社会福祉の資格制度と従事者</p> <p>4. 社会福祉サービス提供システム ・ 措置制度の仕組み・問題点・争点 ・ 制度改革—介護保険・社会福祉基礎構造改革 ・ サービス利用システムの諸類型 ・ 契約システム下の利用者保護</p> <p>5. 社会福祉の財政 ・ 福祉と財政の関係 ・ 国・地方の社会福祉財政 ・ 社会福祉サービスの費用 ・ 利用者負担</p>			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
平常点（出席、小レポート）および試験	講義の中で適宜提示するが、さしあたり以下の文献を参照のこと。 ・ 坂田周一『社会福祉政策』有斐閣アルマ、2000年 ・ 岩田正美・上野谷加代子・藤村正之『ウェルビーイング・タウン社会福祉入門』有斐閣アルマ、1999年 ・ 大山博・武川正吾編『社会政策と社会行政—新たな福祉の理論の展開をめざして—』法律文化社、1991年 ・ 三重野卓・平岡公一編『福祉政策の理論と実際—福祉社会学研究入門』東信堂、2000年			
[教科書]				
無し（講義でレジュメ・資料を配布する）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉計画論		8・12月集中	4単位	松 原 一 郎
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>社会福祉施策を具体的・合理的に進めていくための方法として社会福祉計画がある。それは、社会変動や公的セクターの働きや政策と不可分の関係にある。</p> <p>社会福祉計画の基礎概念や類型を学びながら、個別分野の計画 — 介護保険、障害者プラン、エンゼルプラン — についても学生諸君の発表にあわせて論及していく。</p>	<p>レクチャーとディスカッションで2コマを形成する。</p> <p>前半 ①社会変動と社会福祉制度 ②社会福祉計画とは何か：基礎概念、構成要素 ③公的計画と民間計画</p> <p>後半 ④計画の個別具体的事例：高齢者、障害者、児童、地域福祉等 ⑤まとめ：ニーズ、計画と参画、評価</p>			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
平常試験による。（レポート・発表を含む）	『社会福祉計画』 定藤・坂田・小林共編、有斐閣、1996 『厚生労働白書』当該年度版			
[教科書]				
特に指定しない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
公的扶助論		秋学期 集 中	4 単位	瀧澤 仁唱
[講義概要・学習目標] 1 現代社会における公的扶助の理念と意義について理解させる。 2 生活保護制度のしくみと近年の動向について理解させる。 3 生活保護及び関連分野の組織・専門職及びその連帯のあり方について理解させる。	[講義計画] 1 現代社会と公的扶助 1) 公的扶助理念の発達 2) 概念と範囲 3) 役割と意義 2 低所得対策の概要 3 生活保護制度のしくみ 1) 目的 2) 基本原理 3) 保護の原理 4) 保護の種類と内容 5) 保護の機関と実施体制及び財源 6) 保護施設の種類 7) 被保護者の権利及び義務 4 生活保護の最近の動向 5 生活保護及び関連分野の組織・専門職及びその連帯のあり方 1) 組織・専門職 2) 連帯のあり方 [参考文献] 『社会福祉六法 2002(平成14)年版』(新日本法規)			
[成績評価の方法] 論述式筆記試験				
[教科書] 法改正が多く、適当な教科書が間にあわないので、別途指示します。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
家族福祉論		通 期	4 単位	中 村 永 司
[講義概要・学習目標] 現代社会における家族の特質や構造、機能を探り、現代家族の問題や動向を究明してその対応策を探る。 ① 家族福祉をとらえる視点 ② 現代社会の特質 ③ 家族機能の変化 ④ 現代家族の母子関係 ⑤ 児童・障害・高齢者問題とその対応策 ⑥ 家族支援ソーシャルワーク ⑦ 臨床的ケアマネジメント	[講義計画] 講義の前半で現代家族のかかえる問題や特質を分析し、家族機能の変容を考察する。 後半で、家族メンバーの固有の問題を点検し、問題解決の方策や方法を考える。 [参考文献] なし			
[成績評価の方法] 期末にレポートを提出し、それを評価する。				
[教科書] なし				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
リハビリテーション論		秋学期	2 単位	奥 田 邦 晴
〔講義概要・学習目標〕 障害者が豊かな生活を営んでいく上で、リハビリテーションから自立生活への円滑な連携が非常に重要である。そのためには、リハビリテーションは、適切な時期に実施された、必要最小限に時間を限定したものでなくてはならない。ノーマライゼーション社会の構築を目標に、このリハビリテーションを包括的な視点からとらえ、保健-医療-福祉の一体化を押し進めていくことを目標とする。 なお、リハビリテーション論を学ぶ上で障害についての理解を深めることは非常に大切である。代表的な疾患を取り上げ、それぞれの障害やリハビリテーションアプローチについて解説する。		〔講義計画〕 1.リハビリテーション総論 2.障害と評価(脊髄損傷、脳卒中、脳性麻痺その他) 3.各種専門職種 4.疾患・病態からみたリハビリテーションの実際 5.補装具 6.リハビリテーション工学 7.障害者のスポーツ 8.地域ケア 9.その他		
〔成績評価の方法〕 筆記試験		〔参考文献〕 「入門リハビリテーション概論」 中村隆一 医歯薬出版株式会社 「リハビリテーション論」 福祉士養成講座編集委員会 中央法規 「リハビリテーションの理論と実際」 上田 敏 ミネルヴァ書房 「リハビリテーションを考える」 上田 敏 障害者問題双書 「リハビリテーション概論」 砂原茂一 医歯薬出版株式会社		
〔教科書〕 特に定めない				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
人格発達論		春学期集中	4 単位	岡 井 哲 明
〔講義概要・学習目標〕 世の中の変化は目まぐるしい。時代が緩やかに変化するのではないため、人が何を基軸として生きていけば良いのかが分かりにくくなっている。 多様な価値が許される柔軟な社会とも言えるが、何か柱となるものがなく、個々人は生きる目標も定めにくく、意識の拡散する時代である。 心の奥底の悩みと表面の行動との乖離も大きく、個々の悩みは深くても、他人には気づかれないほど軽めに見える場合もある。 本講義では、パーソナリティ理論の中でも、無意識の概念を導入し、人間を総体として捉える実践的な経験から生まれた「精神分析学」を中心に主要な各理論を紹介し、人格の発達を概観する。 必要に応じて事例を交え人間の心に対する理解を深め、悩める人への援助についても触れ、受講者自身が今まで以上に自分について、また、人間に対する関心を増し、今後の子育てや対人援助について役立つ契機となればと考えている。		〔講義計画〕 1)心の深層構造～精神分析の基礎理論 フロイトの精神分析理論から～自我の働き、深層心理学的な力動 cf.ユングの分析心理学 2)乳幼児のこころの世界～乳幼児研究・乳幼児精神分析 児童分析 (アンナフロイト・マリー・クライン) から対象関係論 (D.W.ライコット) まで 3)ライフサイクルから見た心理社会的発達について (E.H.エリクソン) 自我同一性、グランドプラン、ライフサイクル		
〔成績評価の方法〕 学年末試験(論述)の成績を最終的な評価とする。その他レポート有。		〔参考文献〕 随時、講義の中で参考図書については紹介する。		
〔教科書〕 特に指定はしない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉施設処遇論		春学期集中	4単位	松端 克文
[講義概要・学習目標] 本講は社会福祉施設での援助論（支援論、あるいはサービス論）である。今日わが国の社会福祉従事者は 100 万人を超えているが、そのほとんどが福祉施設の従事者である。本学の卒業生の就職先も大半が社会福祉施設である。しかし、社会福祉施設での援助論、あるいはサービス論として体系化された理論や方法はほとんどない。また、社会福祉援助技術（ソーシャルワーク）の理論や方法は学んでも、それを活用できる「現場」は、施設をソーシャルワークの実践と分けて捉えてしまうとすれば、非常に限定されてしまう。そこで本講では、社会福祉施設をソーシャルワークを統合的に実践する場として積極的に位置づけることができるよう試みたい。そのためにはたとえば、個別援助技術を「相談援助業務」や「グループワーク」として狭く解するのではなく、対人援助の基本的な視点なり方法として捉え、施設利用者の支援に役立てることができるよう捉え直すことが必要である。あるいは「コミュニティワーク」を社協での実践の方法論とするだけでなく、施設利用者の地域生活支援のための方法論として捉え直すことも必要となる。こうした観点から施設援助論の構築に努めたい。	[講義計画] 前期 1. 社会福祉改革の動向と社会福祉施設 2. 社会福祉施設の歴史 3. 社会福祉施設の制度体系 4. 社会福祉施設サービス・運営の現状把握 後期 5. 社会福祉施設のサービス評価 6. 社会福祉施設におけるソーシャルワーク実践—個別援助技術の観点から— 7. 社会福祉施設における地域生活支援—コミュニティワークの観点から— 8. 社会福祉施設における苦情解決の仕組み、オンブズマンの活動			
[成績評価の方法] 出席、レポート、学年末試験による	[参考文献] 授業時に紹介する			
[教科書] 教科書使用しない 適宜プリント配布				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
介護概論	01 02	秋学期 秋学期	2単位 2単位	佐瀬 美恵子 伊達 京子
[講義概要・学習目標] 1 介護の役割と範囲を理解させるとともに、看護・医療及び家政との関係について理解させる。 2 具体的な介護の展開過程や介護の実践について演習形式等を活用し理解させる。 3 身体的及び精神的な変化に対する観察能力を身につけ、それらの変化に速やかに正しく対処できる能力を養い、保健・医療機関、専門職との連携、協力及び必要に応じたその手助けをすることができるようにする。 4 病気や遭遇しやすい事故についての知識をもち、それらに対する予防措置を講ずることができるようにする。	[講義計画] 1 介護の目標、機能及び範囲 1) 介護の原則、目標、機能及び範囲 2) 自立的な生活維持に対する需要と介護の役割 3) 成人期以降、老人・障害者の生活上の需要と介護の役割 4) 健康維持のメカニズム 5) 終末期の介護 6) 介護過程の展開 2 介護技法（安全、快適、安寧、健康水準の低下予防等）の基本 1) 住生活環境の安全管理（感染防止） 2) 食事 3) 排泄 4) 衣服の着脱 5) 入浴・身体の清潔と感染防止 6) 移動空間の確保 7) 健康習慣の獲得 8) 体力の維持（運動と機能維持） 9) 自己達成と社会生活の維持（レクリエーションと学習等） 10) 療養時の対応 11) 緊急・事故等の対応 12) 介護家族への生活維持援助 13) 福祉用具の活用 3 介護関係維持のための技法 1) 健康や生活の観察技法 2) コミュニケーションの技法 3) 記録と情報の共有化の技法 4) 介護専門職（介護福祉士）と医師・看護婦・保健婦等医療専門職との連携のあり方 5) 介護専門職とその他の福祉専門職（社会福祉士）との連携のあり方 4 介護活動の場に特有な問題と技法 1) 家庭 2) 施設			
[成績評価の方法] 出席状況とレポートの内容を勘案し総合的に評価する。				
[教科書] 『新版社会福祉士養成講座 14 介護概論』（中央法規）				
[参考文献] 『ケアマネジメントのための福祉用具アセスメント・マニュアル』市川洵（編）（中央法規） 『痴呆の人々のケアが活きる場所グループホーム』中島紀恵子（編著）（日本看護協会出版会） 『日常生活に援助を必要とする人の在宅ケア』奥宮暎子・後閑容子（編著）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
介 護 演 習 (旧介護実習)	0 1 0 2	8月集中 8月集中	2単位 2単位	大 西 早百合 佐 瀬 美恵子
[講義概要・学習目標] 介護演習は介護概論を受けて実践的に介護の理論と技術を展開することを目的とする。加齢や心身の障害によって日常生活が自力では行えない人を、どうすれば残存機能が最大限にいかせるか、人の尊厳や個性を尊重しながら援助できるか、予防的視点を持って日常生活が自立できるか、更に生涯にわたって成長・発達し続ける存在としての人を介護ではどう援助できるかを、具体的事例を用いて学び合う。	[講義計画] ひとり暮らし高齢者、痴呆性高齢者、進行性の障害児・者等の事例を用いて、小グループに分かれて具体的な援助方法を学ぶ。 1. コミュニケーションの方法 2. アセスメントの方法と記録方法 3. 社会資源の活用と調整の方法 4. 介護技術の展開 5. モニタリングと評価方法 6. まとめ			
[成績評価の方法] レポートと平常点（出席率及び演習への参加状況）を総合して評価する。	[参考文献] 「痴呆性高齢者ケア ーグループホームで立ち直る人々ー」 小宮英美著 中公新書			
[教科書] 「介護概論 新社会福祉学習双書」 編集委員会編 全国社会福祉協議会				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
臨床心理学		通 期	4 単位	川 口 茂 雄
[講義概要・学習目標] 今日、「もの」が豊かになるにつれて、「こころ」の重要性がだいに認識されるようになっていく。このような時代において、臨床心理学は、医療、福祉、教育、司法、産業、地域社会などの各臨床現場で、「こころ」の問題や葛藤で悩み苦しんでいる人々を、心理学的な知識や技法を用いて援助してゆく、極めて実践的な学問である。 本講座では、まず臨床心理学発展の歴史を振り返りながら、その独自性、特色を明らかにした上、基礎的な人格理論や対象となる各発達段階での課題と病理を学習させる。次に、心理臨床の実践現場での人格理解の方法（面接、各種心理検査）及び心理療法の幾つかの技法について、時間を割いて習得させる。講義の中で、事例紹介、時事的問題の説明、心理テストの実施、ビデオの試聴などをとおして、「実践の学」である臨床心理学の理解を深めさせる。	[講義計画] 1 臨床心理学とは何か 2 臨床心理学の歴史 3 精神力動理論の基礎 4 パーソナリティの発達と病理 (1) 各発達段階の課題 (2) 適応障害と精神病理 5 臨床心理学的アセスメント (1) 面接と行動観察 (2) 心理検査法 6 心理療法 (1) 来談者中心療法 (2) 行動療法 7 臨床心理学の課題			
[成績評価の方法] レポート提出及び期末試験の成績等によって総合的に評価する。	[参考文献] 馬場健一編「臨床心理学」弘文社 野島一彦編「臨床心理学への招待」ミネルヴァ書房 森谷寛之編「はじめての臨床心理学」北樹出版			
[教科書] 特に指定しない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者																														
精神保健学		春学期 集 中	4 単位	郭 麗月																														
[講義概要・学習目標]	<p>1 精神保健についての基本知識について理解させる。 2 ライフサイクルにおける精神保健について理解させる。 3 精神保健における個別課題への取り組みと実際について理解させる。 4 地域精神保健と地域保健について理解させる。 5 諸外国における精神保健の概要について理解させる。 6 関連法規および施設について理解させる。</p>																																	
[成績評価の方法]	<p>レポート、定期試験</p>																																	
[教科書]	<p>精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編 精神保健福祉士養成セミナー 第2巻 『精神保健学』 (へるす出版)</p>																																	
	<p>[講義計画]</p> <table border="0"> <tr> <td>1 精神保健についての基本知識</td> <td>4) 薬物乱用防止対策</td> </tr> <tr> <td>1) 精神保健の概要</td> <td>5) 思春期精神保健対策</td> </tr> <tr> <td>2) 精神保健の意義と課題</td> <td>6) 地域精神保健対策</td> </tr> <tr> <td>2 ライフサイクルにおける精神保健</td> <td>7) ターミナルケアと精神保健</td> </tr> <tr> <td>1) 胎児期および乳幼児期における精神保健</td> <td>4 精神保健活動の実際</td> </tr> <tr> <td>2) 学童期における精神保健</td> <td>1) 家庭における精神保健</td> </tr> <tr> <td>3) 思春期における精神保健</td> <td>2) 学校における精神保健</td> </tr> <tr> <td>4) 青年期における精神保健</td> <td>3) 職場における精神保健</td> </tr> <tr> <td>5) 成人期における精神保健</td> <td>4) 地域における精神保健</td> </tr> <tr> <td>6) 老年期における精神保健</td> <td>5 地域精神保健と地域保健</td> </tr> <tr> <td>3 精神保健における個別課題への取り組み</td> <td>1) 地域精神保健施策の概要</td> </tr> <tr> <td>1) 精神障害者対策</td> <td>2) 地域保健施策の概要</td> </tr> <tr> <td>2) 老人性痴呆疾患対策</td> <td>3) 関係法規</td> </tr> <tr> <td>3) アルコール関連問題対策</td> <td>4) 関連施策</td> </tr> <tr> <td></td> <td>6 諸外国における精神保健</td> </tr> </table> <p>[参考文献]</p> <p>適時紹介する。</p>				1 精神保健についての基本知識	4) 薬物乱用防止対策	1) 精神保健の概要	5) 思春期精神保健対策	2) 精神保健の意義と課題	6) 地域精神保健対策	2 ライフサイクルにおける精神保健	7) ターミナルケアと精神保健	1) 胎児期および乳幼児期における精神保健	4 精神保健活動の実際	2) 学童期における精神保健	1) 家庭における精神保健	3) 思春期における精神保健	2) 学校における精神保健	4) 青年期における精神保健	3) 職場における精神保健	5) 成人期における精神保健	4) 地域における精神保健	6) 老年期における精神保健	5 地域精神保健と地域保健	3 精神保健における個別課題への取り組み	1) 地域精神保健施策の概要	1) 精神障害者対策	2) 地域保健施策の概要	2) 老人性痴呆疾患対策	3) 関係法規	3) アルコール関連問題対策	4) 関連施策		6 諸外国における精神保健
1 精神保健についての基本知識	4) 薬物乱用防止対策																																	
1) 精神保健の概要	5) 思春期精神保健対策																																	
2) 精神保健の意義と課題	6) 地域精神保健対策																																	
2 ライフサイクルにおける精神保健	7) ターミナルケアと精神保健																																	
1) 胎児期および乳幼児期における精神保健	4 精神保健活動の実際																																	
2) 学童期における精神保健	1) 家庭における精神保健																																	
3) 思春期における精神保健	2) 学校における精神保健																																	
4) 青年期における精神保健	3) 職場における精神保健																																	
5) 成人期における精神保健	4) 地域における精神保健																																	
6) 老年期における精神保健	5 地域精神保健と地域保健																																	
3 精神保健における個別課題への取り組み	1) 地域精神保健施策の概要																																	
1) 精神障害者対策	2) 地域保健施策の概要																																	
2) 老人性痴呆疾患対策	3) 関係法規																																	
3) アルコール関連問題対策	4) 関連施策																																	
	6 諸外国における精神保健																																	

福
社
~01

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
カウンセリング		通 期	4 単位	川 口 茂 雄
[講義概要・学習目標]	<p>現代は不安の時代と言われている。人びとは、厳しい社会状況の中で、孤独と強いストレスにさらされ、家庭、学校、職場などでの人間関係で悩み苦しんでいる。このような不適応状況にある人びと（クライエント）が、援助者（カウンセラー）とのコミュニケーションによって、人間関係の改善や自己実現を図ってゆく心理学的面接をカウンセリングと呼んでいる。</p> <p>本講座では、カウンセラーはどのような態度や技法でもってクライエントとかかのか、カウンセリングはどのように展開してゆくのか、カウンセリング過程で生ずる諸問題をどのように解決するのか、各分野でのカウンセリングの実際はどのようなものなのかを理解させる。</p> <p>前期ではカウンセリングの基礎的理論、技法、進め方などビデオ等の視聴も交えながら学習させ、後期ではロールプレイによる体験学習を実施して、その実際を具体的に習得させる。</p>			
[成績評価の方法]	<p>レポート提出及び実技（あるいは期末試験の成績）等によって総合的に評価する。</p>			
[教科書]	<p>特に指定しない。</p>			
	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 カウンセリングとは何か 2 カウンセリングの理論 3 カウンセラーの基本的態度 4 カウンセリングの技法 5 カウンセリングの展開 6 カウンセリングの終結 7 カウンセリング過程で生じる諸問題 8 結婚カウンセリング 9 学校カウンセリング 10 カウンセラーの専門性と倫理 11 ロールプレイによる体験学習 <p>[参考文献]</p> <p>河合隼雄著「カウンセリングの実際問題」誠信書房 澤田瑞也他編「キーワードで学ぶカウンセリング」世界思想社 東山紘久著「プロカウンセラーの聞く技術」創元社</p>			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
レクリエーションワーク		秋学期集中	4単位	石田 易 司
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>組織キャンプを素材に、障害者、高齢者、児童などの福祉対象者へのレクリエーション指導の理論と技術を身につける。 施設などの福祉現場に出た時に役に立つ人材になれるよう、教室内での受け身の授業で終わらず、積極的に野外に出て、安全やプログラム運営技術、グループワークの体験ができるよう、実習も行う。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>①福祉におけるレクリエーションの現状と課題 ②組織キャンプの理解 ③キャンプの対象とプログラム ④個々のプログラムの運営と指導 ⑤キャンプ実習 ⑥救急法実習 ⑦レクリエーションとセラピー ⑧記録と評価</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席点と期末のレポート</p>	<p>[参考文献]</p> <p>「CAMPING FOR ALL」(エルビス社) 「いきいき高齢者キャンプ」(朱鷺書房) 「高齢者レクリエーション指導の手引き」(朝日新聞厚生文化事業団) 「福祉レクリエーション総論」(中央法規) 「痴呆性老人とキャンプ」(朱鷺書房)</p>			
<p>[教科書]</p> <p>「アイズブレイク」(エルビス社) 「新しい高齢者レクリエーション」(大阪YMCA)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
福祉事情研究		通 期	4単位	中 村 永 司
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>現代社会における社会福祉のトピックスを扱う。</p> <p>①最近の社会福祉の理念の動向 ②ドメスティックバイオレンスの実態 イ：児童虐待 ロ：婦人虐待 ハ：高齢者虐待 ③ドメスティックバイオレンスの対応策 ④在宅福祉サービスの最近の課題 －保健・医療・福祉の連携－</p>	<p>[講義計画]</p> <p>講義の前半で最近の社会福祉の理念や構造をさぐり、最近特に問題になっている虐待に焦点をあてて実態にせまる。 後半において、社会福祉サービスの全体像を明らかにし福祉の課題をさぐる。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>期末にレポートを提出し、それを評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>なし</p>			
<p>[教科書]</p> <p>なし</p>				